

## 子どもは電子メディア機器とどんなつきあいをしているの？ ～児童生徒・保護者対象アンケート結果～

佐久市教育委員会

Saku Kids メディア Safety

電子メディア機器は上手に使いばとても便利なものですが、児童・生徒の中には、携帯電話、タブレット機器、ゲーム機器等に夢中になりすぎて生活リズムを乱す子どもや、身近になったインターネットを介してネットトラブル（いじめ等を含む）に巻き込まれる子どもが多くなってきています。昨年5月、市内共通の「電子メディア機器等に関するアンケート」を実施したところ、スマホ・タブレットやゲーム機等に依存傾向を示す児童生徒がいることや、それらの機器使用について家での約束がなかったり、約束があっても守られていなかったりといった現状が見えて参りました。佐久市 PTA 連合会はこの結果を受けて、早期対応の必要性を発信し、ご周知の通り「Saku Kids メディア Safety」を立ち上げてこの問題について協議を重ねているところであります。各学校の情報モラル教育の推進や、保護者や地域に向けての啓発等の基礎資料としていただくとともに、佐久市 PTA 連合会および「Saku kids メディア Safety」、佐久市教育委員会としても市全体の状況把握をし、電子メディアとの適切な付き合い方について各種提案を行っていきたいと考えました。

### 1 アンケートの目的

- (1) 幼児、児童、生徒が電子メディア機器とどのような接触をしているのか、またそれについて各家庭でどのような対応をしているのか、その実態を把握する。
- (2) 各園、学校、PTA が自分たちの実態を知り、自分たちの課題として捉え改善に向けた行動に移す。
- (3) 市全体の状況把握をし、全市的な啓発の取り組みを検討する。

### 2 実施時期

- 平成 28 年 6 月

### 3 対象学年等について

＜保育園、幼稚園＞ 年少～年長

＜小学校＞ 3 年生以上

＜中学校＞ 全校生徒

＜保護者＞ 保育園・幼稚園の保護者 小中学校保護者

### 4 アンケート内容・実施方法について

- (1) 児童生徒は学校において一斉アンケート。学校の実態により記名・無記名を選択。  
実施所要時間は発達段階にもよるが、通常 15 分程度。実施者が一斉に読み上げながら進めるのが理想とした。
- (2) 保護者へは電子メール配信システムによるアンケートを実施するが、未加入の家庭には紙ベースのアンケートを実施した。
- (3) 園の保護者へは、園より保護者へアンケート用紙を配布し、回収した。

## 5 回答が得られた人数・回収率

### <児童生徒>

小学校 3年 836人 4年 865人 5年 840人 6年 891人 計 3432人  
 3432(回答数)/3566(全児童数) 回収率 96%

中学校 1年 842人 2年 811人 3年 869人 計 2522人  
 2522(回答数)/2702(全生徒数) 回収率 93%

### <保護者>

小学校 1年 657人 2年 661人 3年 662人 4年 733人 5年 681人 6年 721人  
 計 4115人 4115(回答数)/5259(全児童数) 回収率 78%

中学校 1年 744人 2年 650人 3年 676人  
 計 2070人 2070(回答数)/2702(全生徒数) 回収率 77%

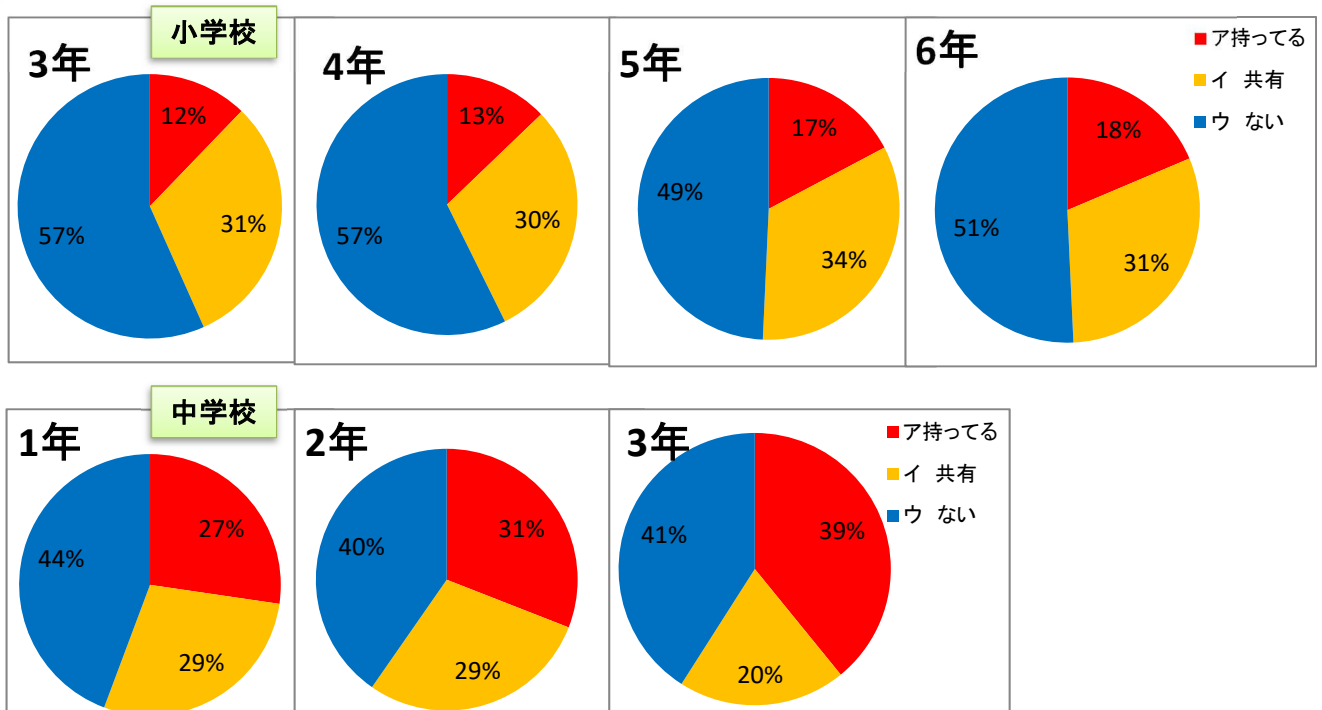
保育園・幼稚園 年少 666人 年中 653人 年長 729  
 計 2048人 2048(回答数)/2530(全園児数) 回収率 81%

※保育園・幼稚園の保護者アンケートの結果は後日掲載します。

## 5 結果と考察

### (1) 小中学生アンケートの結果から

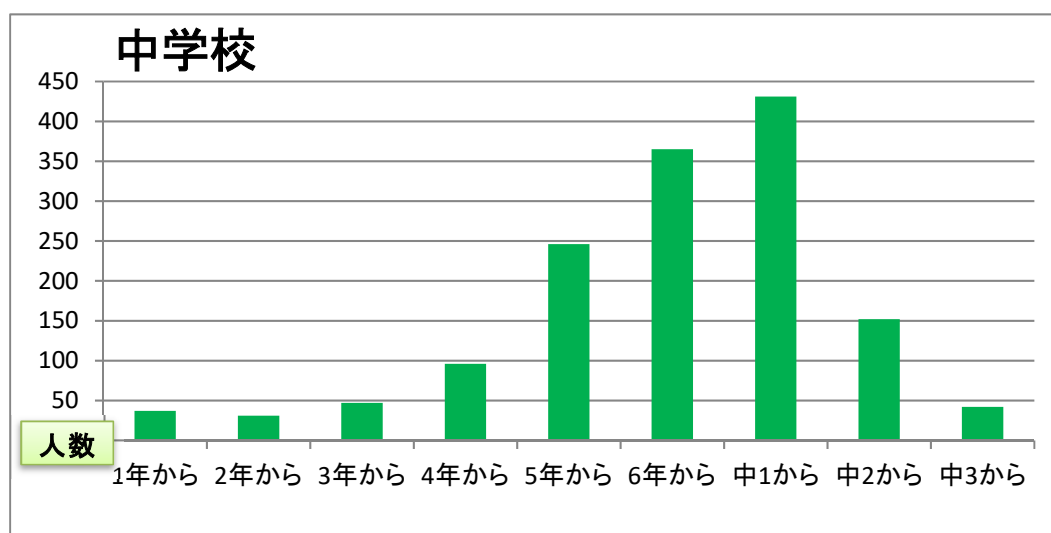
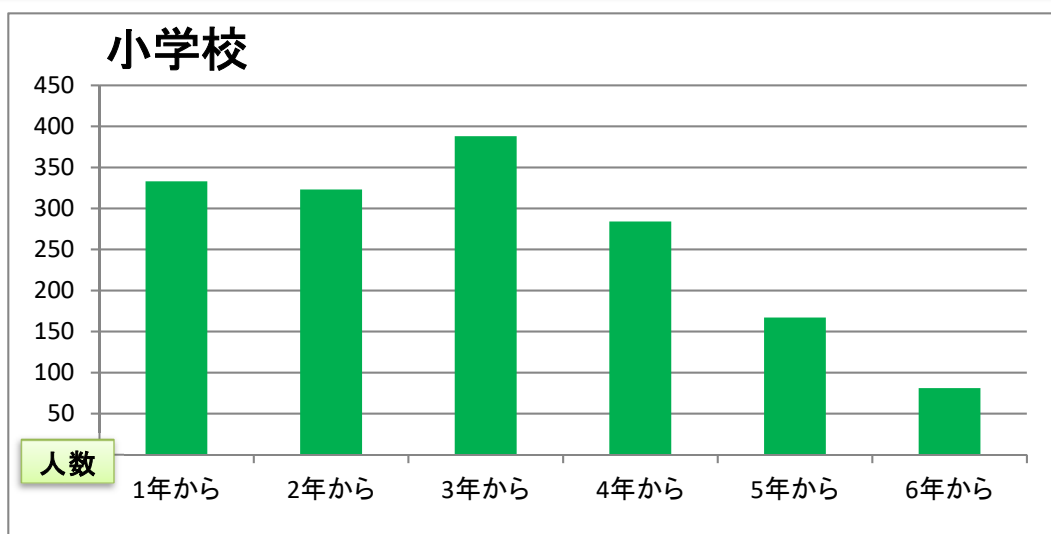
問① あなたは、自分が使える携帯電話(スマホ等)を持っていますか？



小学校では自分所有の携帯電話(スマホ等：以下「携帯電話」と呼ぶ)は1割～2割程度、中学校においては2割強から4割弱程度である。首都圏などと比較すると、佐久市の所持率は明らかに低いことがわかる。

所持率が中学生になって急に1割近く増えることから、「中学生になったら買ってもらう」という家庭があることがうかがえる。

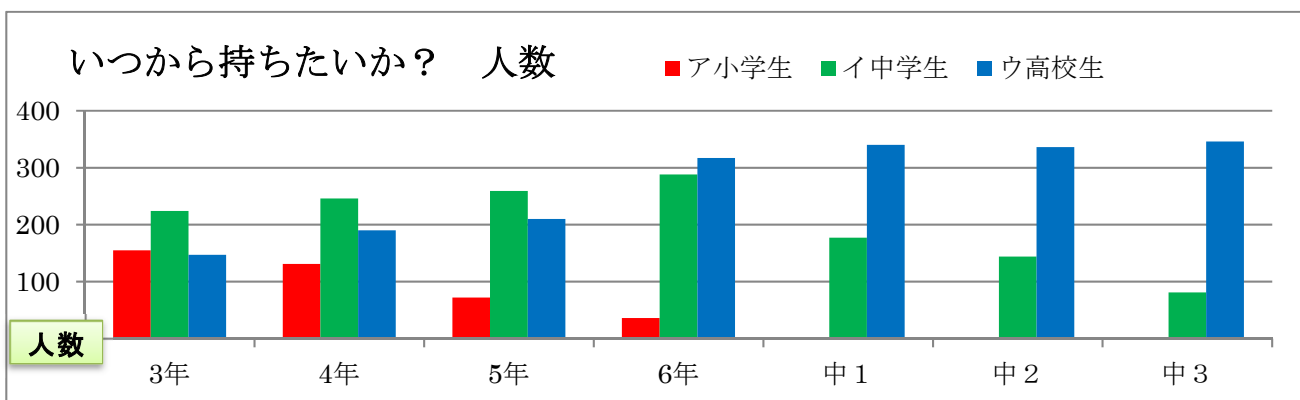
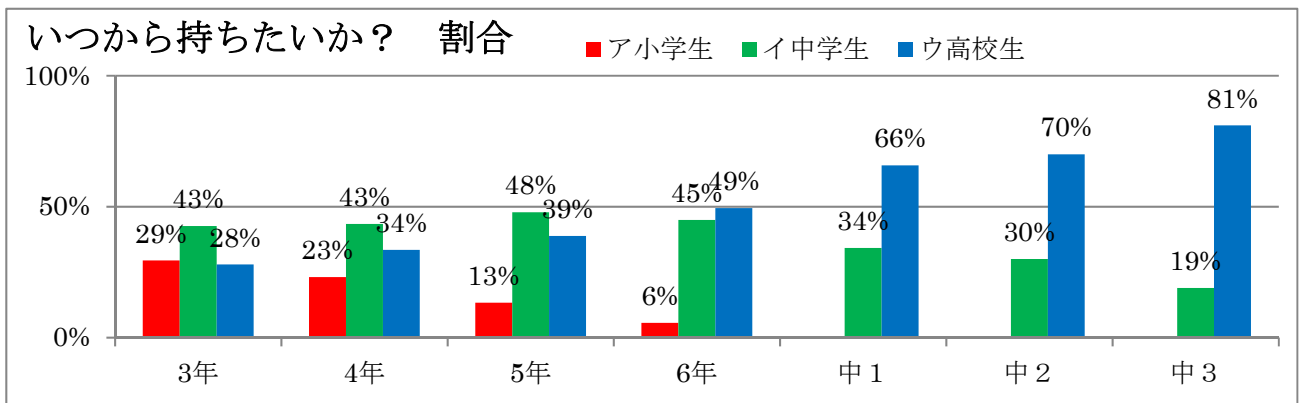
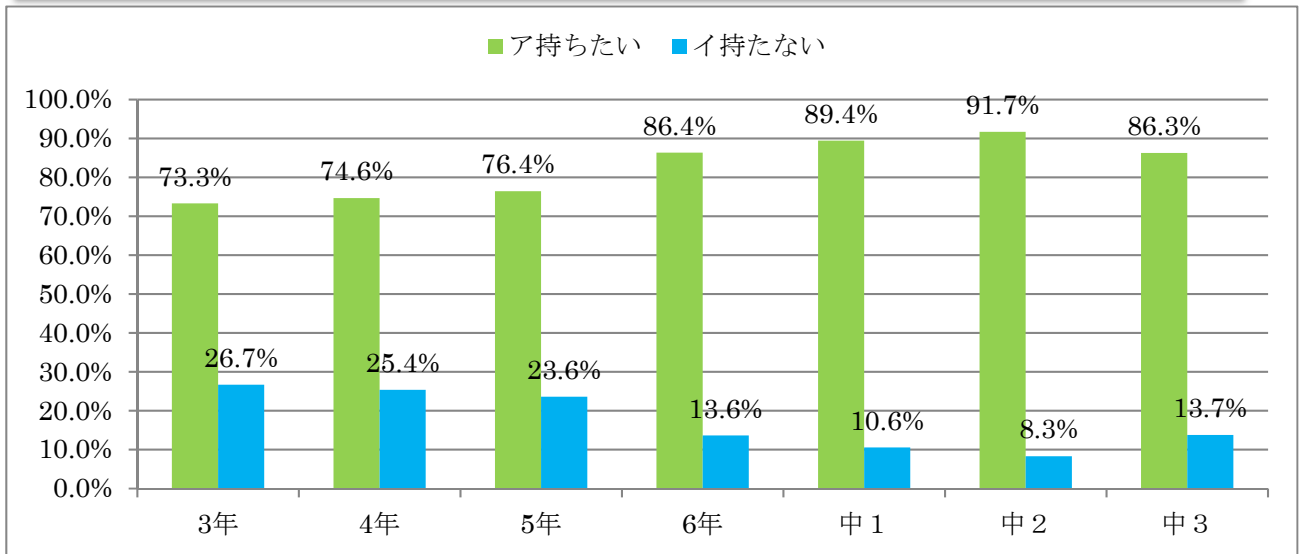
問② あなたは、いつから携帯電話を使っていますか？



小学校の集計は3～6年生の回答のトータル数であるために低学年ほど多めの数字が出る傾向があるが、1～3年生から使っている児童の合計は昨年度と同様に1000人を超えている。低学年の頃から携帯電話に触れている児童が多数いることがわかる。

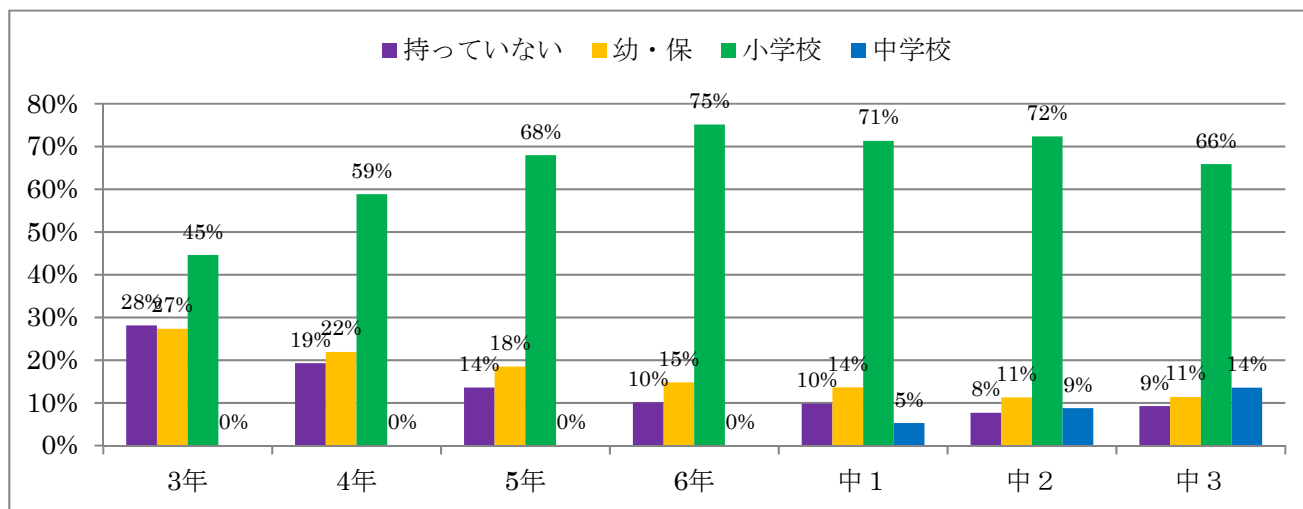
中学生における集計結果では、小学校同様1～3年生の回答のトータル数であるため、中学1、2年生(特に1年生)が多めの数字が出る傾向にあるが小学校高学年から中学生になる過程で使い始める児童生徒が多いことがわかる。小学校の結果と、中学校の結果を比較してみると、携帯電話使用の低年齢化が急激に進んでいる現状がうかがえる

問③ 今、携帯電話を持っていない人は、今後持ちたいですか？  
持つとしたらいつから持ちたいですか？



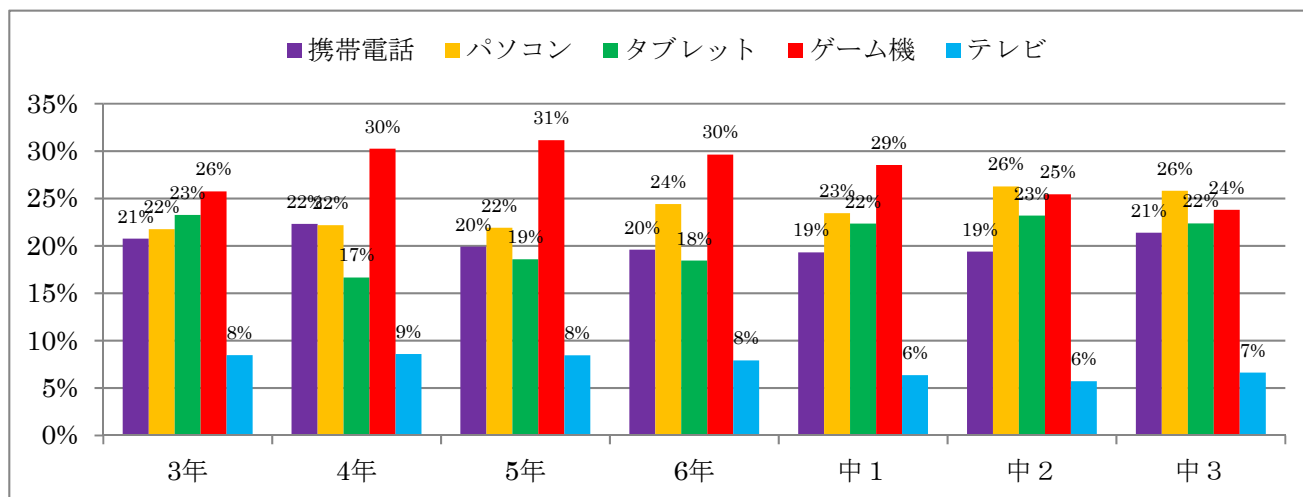
携帯電話を持っていない児童生徒のうち、多くが持ちたいと思っているが、小学校では2割前後、中学校では1割前後が「小中学生のうちには持たなくてもよい」と考えていることがわかる。「子どもは皆、携帯電話を持ちたがっている」とひとくくりにするのではなく、自分の考えで「小中学生のうちには必要ない」あるいは「高校生になるまでは我慢しよう」という判断をしている児童生徒が1～2割（小学6年生以上では各学年300名以上）いるということを確認しておきたい。

#### 問④ タブレットやゲームを最初にもらったのはいつですか



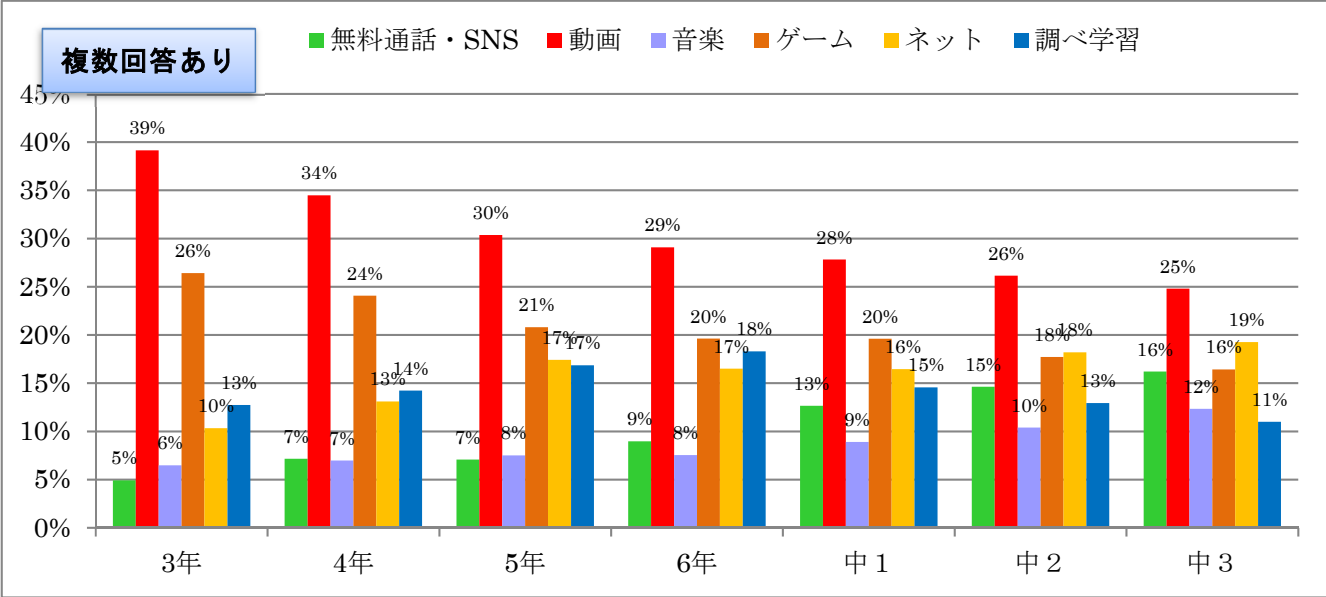
現在の中学生は、ほとんどが小中学生になってから買ってもらっているが、現在の小学生は学年が下がるほど、保育園・幼稚園時代あるいはそれ以前に買ってもらっている割合が高くなっている。タブレットやゲーム機を買ってもらう年齢が明らかに低年齢化していて、就学前の幼児等の保護者への啓発が急務であることがわかる。

#### 問⑤ インターネットをつなぐとき、どの方法でつながりますか？



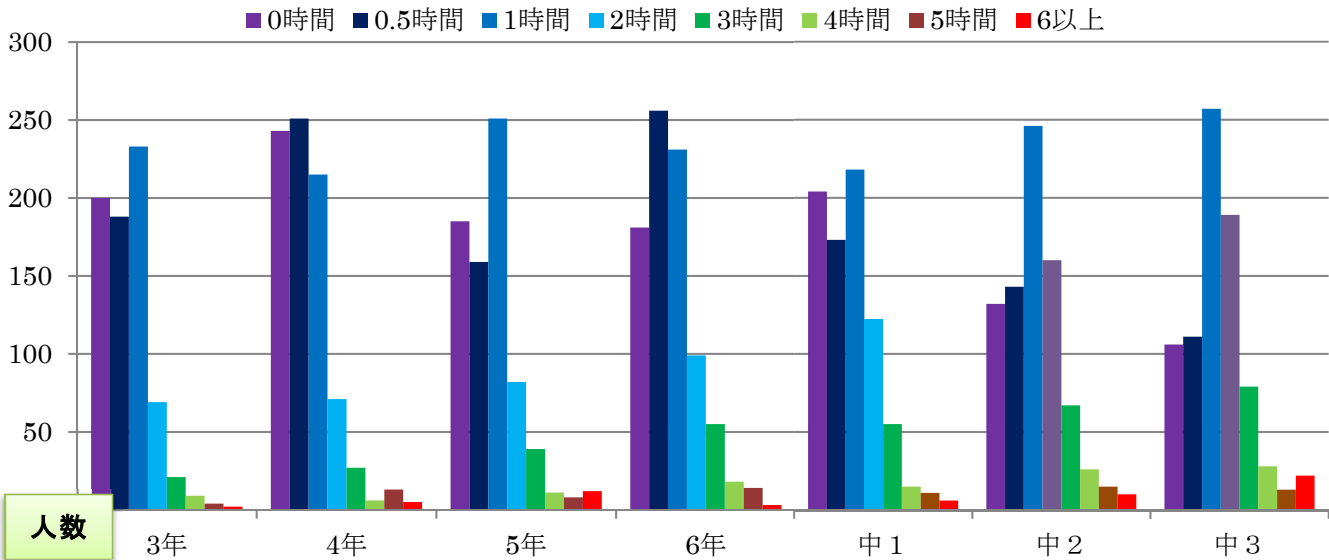
問①の結果でわかるように、佐久市内の小中学生は携帯電話の所持率が低い傾向にある。携帯電話を持っていないと、その代わりにタブレット型機器（アイポッド、アイパッド等）や、インターネット接続可能なゲーム機を買ってもらって所持するケースが多く、結果として小学生の接続方法で一番多いのがゲーム機からであり、中学生でもゲーム機やタブレットからの接続の割合が高くなっている。インターネット接続のあり方や、Wi-Fi スポット（ワイヤレス電波を経由してインターネット接続が可能な場所）へ集まる子どもたちの問題点について現状把握とその対応策を講じていく必要がある。

## 問⑥ インターネットをよく利用するものは？



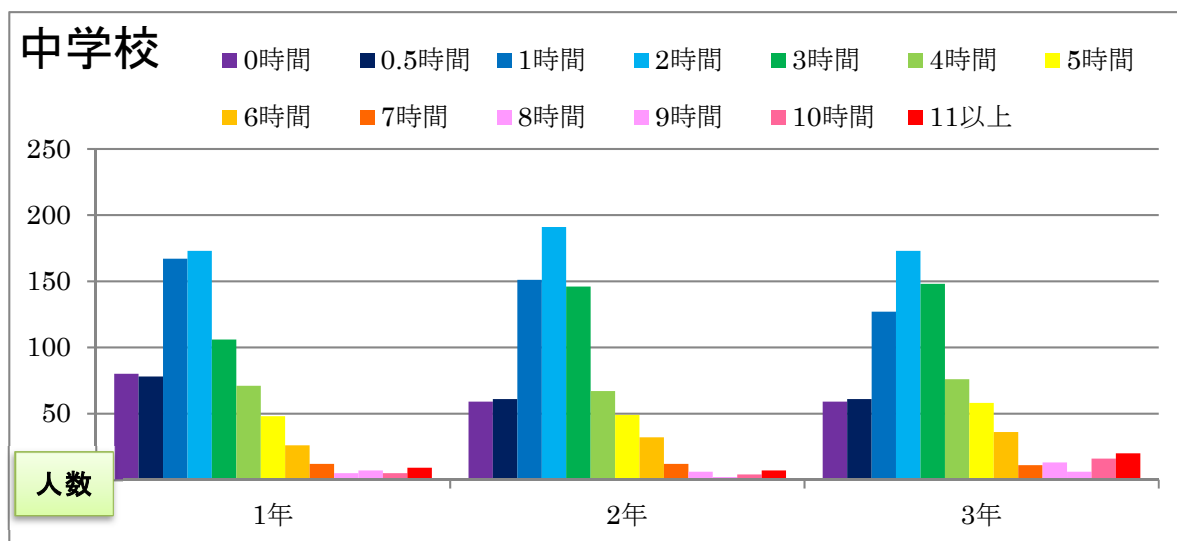
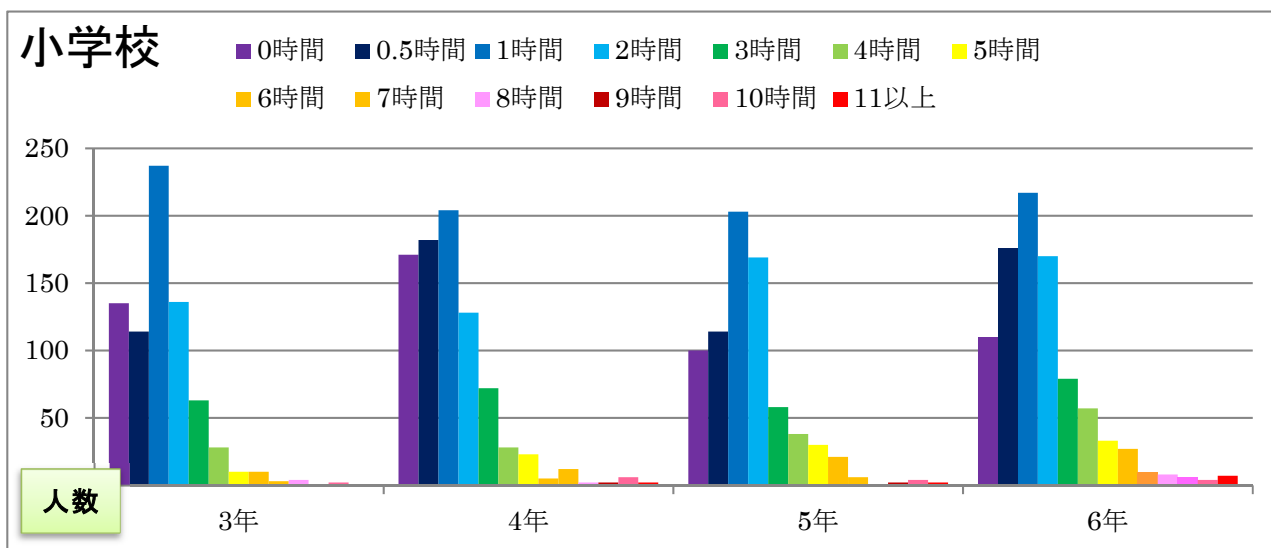
児童生徒が一番利用しているのが昨年度と同様に動画の視聴であり、小学校中学年ではその割合が高い。昨年度の児童生徒への聞き取り調査では、音楽PV(プロモーションビデオ)や漫才、ゲームの攻略動画等の視聴の多いことがわかっていたが、今年度はユーチューバーと呼ばれるような動画投稿者の動画を、TV番組を見るように毎日視聴している児童生徒が非常に多くなったことがわかっている。こういった動画をユーチューブ等で検索する中で、思いがけず子どもの教育上不適切な動画が表示されることもあり、注意を促していく必要がある。

## 問⑦ 平日、平均でどのくらいタブレットやゲーム機等を使っていますか？ テレビ、ビデオ等を除く



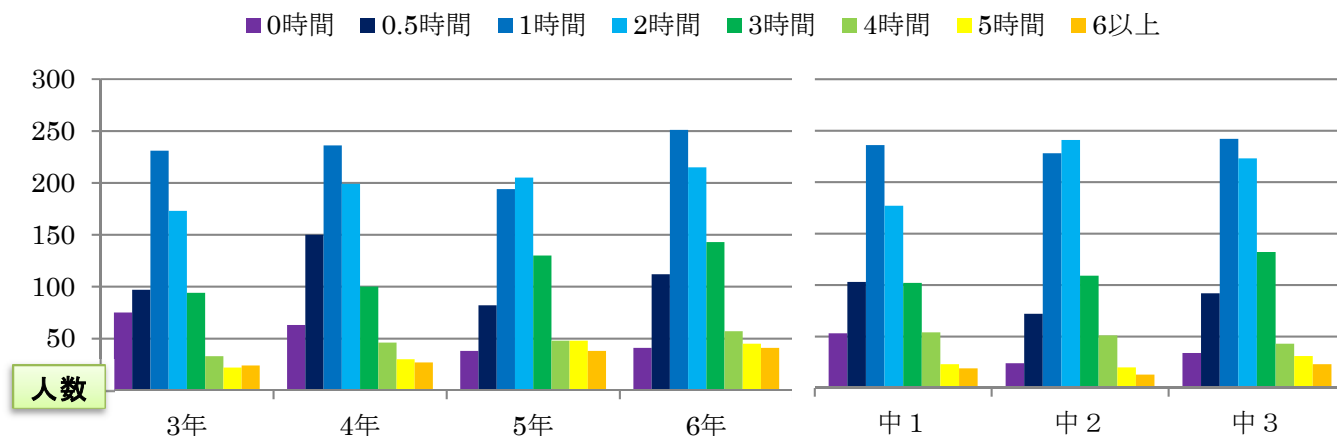
小学校、中学校、いずれも学年が上がるほど使用時間が多くなる傾向がある。小学校では多くが1時間以内であるが、中学2, 3年生の使用時間の平均は1～2時間のあたりにピークがある。また、小、中学校どちらにも平日6時間以上電子メディア機器に触れている児童生徒がいること、中でも中学校ではその傾向が強いことには、生活リズムとの関係で注意を喚起していく必要がある。

問⑦-2 休日、平均でどのくらいタブレットやゲーム機等を使っていますか？  
テレビ、ビデオ等を除く



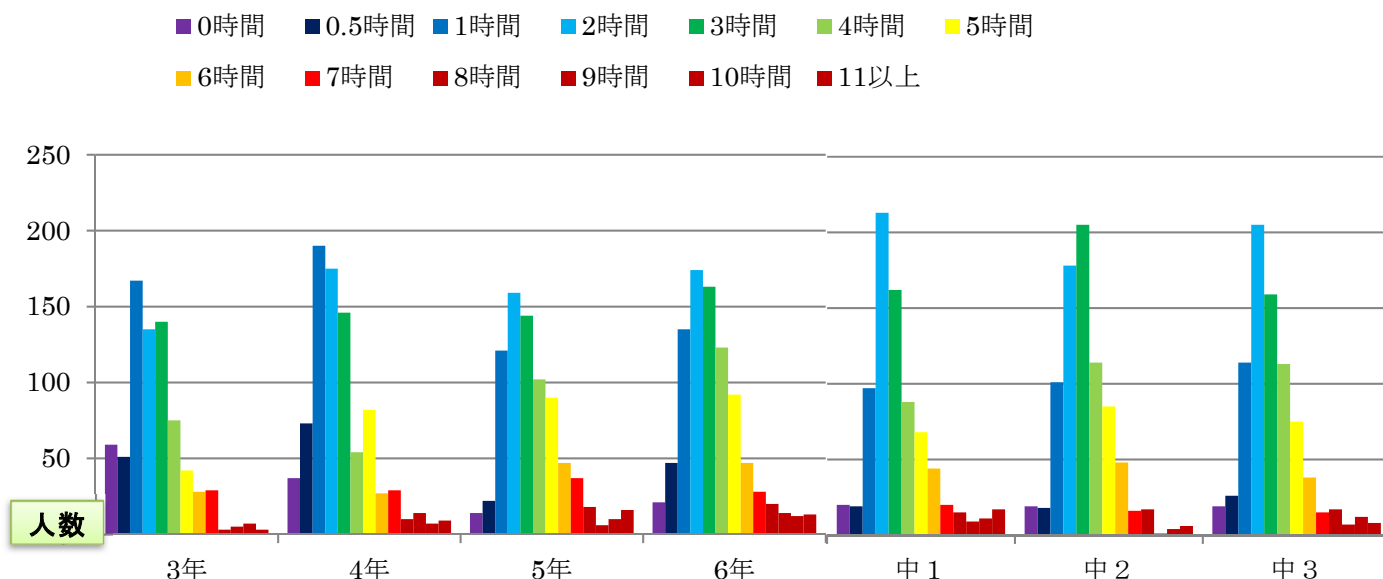
平日と同様に、小学校、中学校、いずれも学年が上がるほど使用時間が多くなる傾向がある。小学校では30分から2時間程度、中学校では1～3時間の使用が多い。小、中学校どちらにも休日11時間以上電子メディア機器に触れている児童生徒がいること、中学2、3年生になると、4～5時間使用する生徒の割合が高くなっていること等から、依存傾向が進行していくことが懸念される。

**問⑧ 平日、平均でどのくらい  
テレビやビデオ、ラジオを見たり聞いたりしていますか？**



小、中学校共に1～2時間の利用にピークがある。タブレットやゲーム機等の使用と比較してみると、小学生はどちらかというとテレビやビデオの視聴時間が長いのに対して中学生はタブレットやゲーム機等の使用時間が長い傾向が見られる。タブレットやゲーム機等の利用状況と同様に、小、中学校どちらにも平日6時間以上テレビ等を利用している児童生徒がいること、中でも小学校ではその傾向が強いことには、生活リズムとの関係で注意を喚起していく必要がある。

**問⑧-2 休日、平均でどのくらい  
テレビやビデオ、ラジオを見たり聞いたりしていますか？**

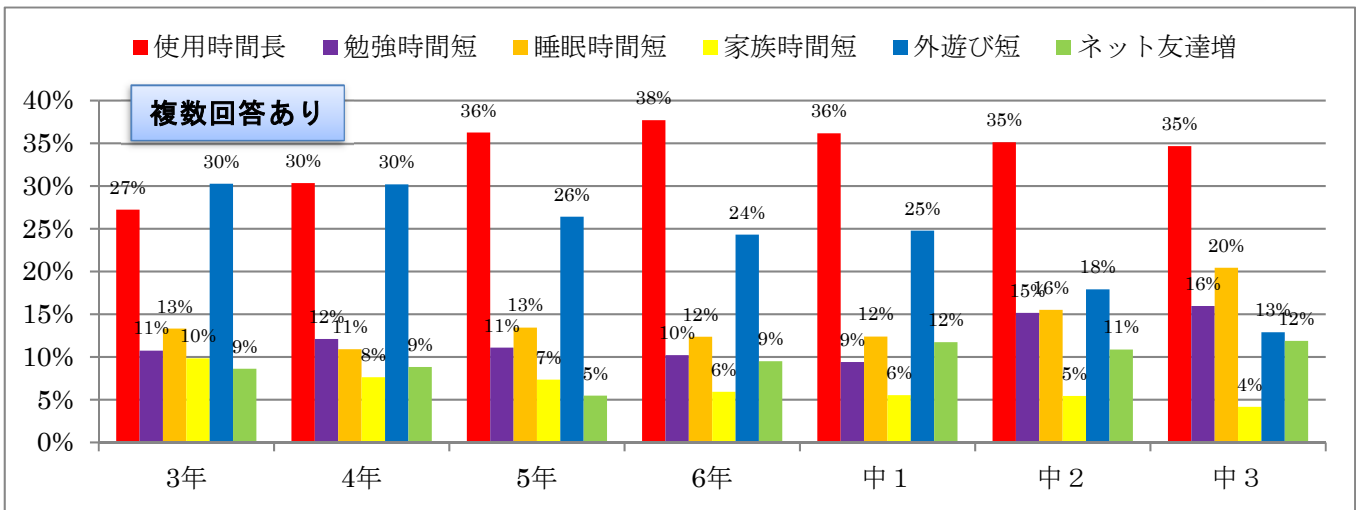


タブレットやゲーム機等と同様に、小、中学校どちらにも休日11時間以上テレビ等を利用している児童生徒がいることから、休日の過ごし方について改めて見なおしていく必要がある。

テレビ等以外の電子メディア機器と併用している児童生徒も多いことが予想され、各校で実態把握を行い、電子メディア全体への依存傾向を把握していく必要がある。

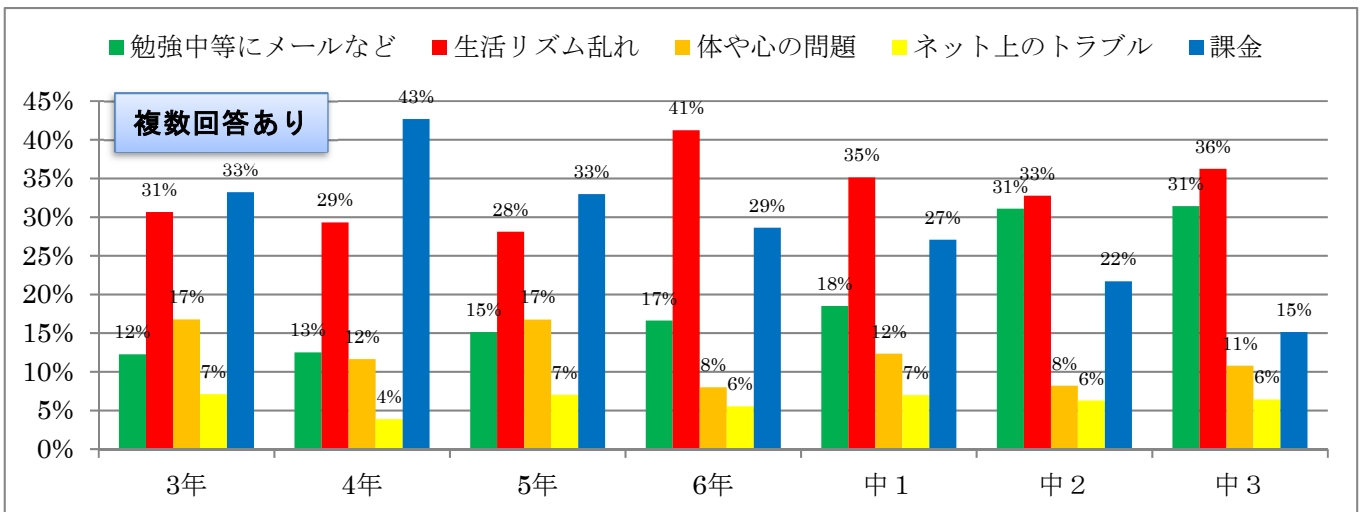


問⑨ スマホ、タブレット、ゲーム機等を使うようになって  
生活は変わりましたか？



小、中学校ともに「使用時間が長くなった」と感じている児童生徒が多い。それにつれて外遊びが短くなり、睡眠時間が短くなっていることがわかる。睡眠時間については学年が上がるにつれて「短くなった」と感じている傾向があり、電子メディア機器の使用が増えた分の時間、睡眠時間を削っている現状が見えてくる。中学2.3年生に特に睡眠時間を削っている傾向があるのは、受験に向けて家庭学習の時間を確保しなければならないのに、ゲームや動画視聴等をやめられない依存傾向が進んでいる状況が見えてくる。

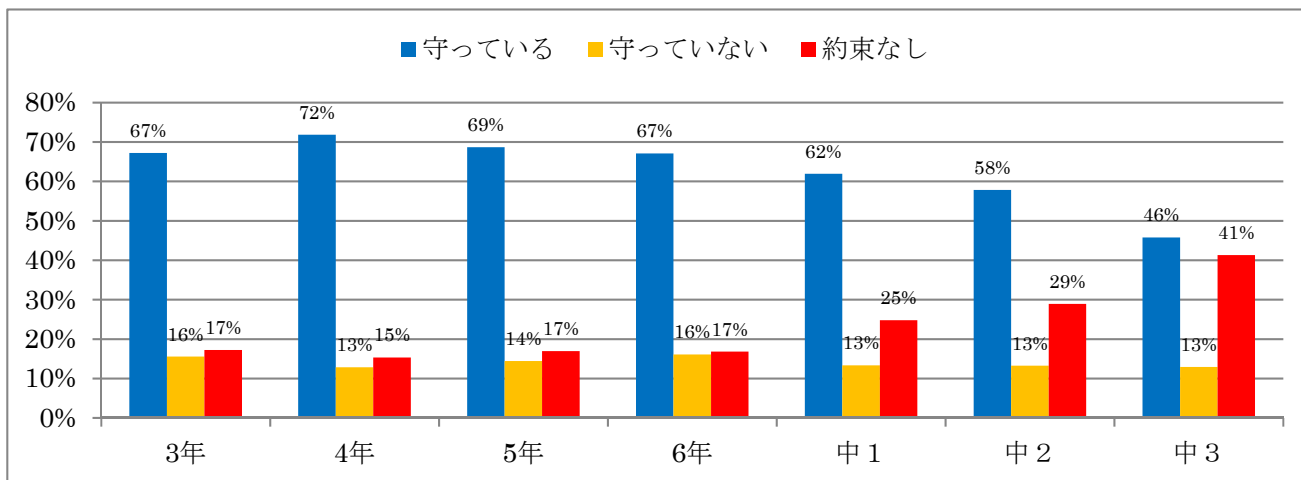
問⑩ スマホ、タブレット、ゲーム機等を使うようになって  
心配なことはありましたか？



どの学年にも共通して多い心配は、「生活リズムの乱れ」や「課金」についてである。報道等でよく取り上げられている「ネット上のトラブル」に多くの心配がいくのではなく、この2点や「心や体の問題」に心配が向いているのは、依存傾向が起因する心配事となっているのではないかとと思われる。

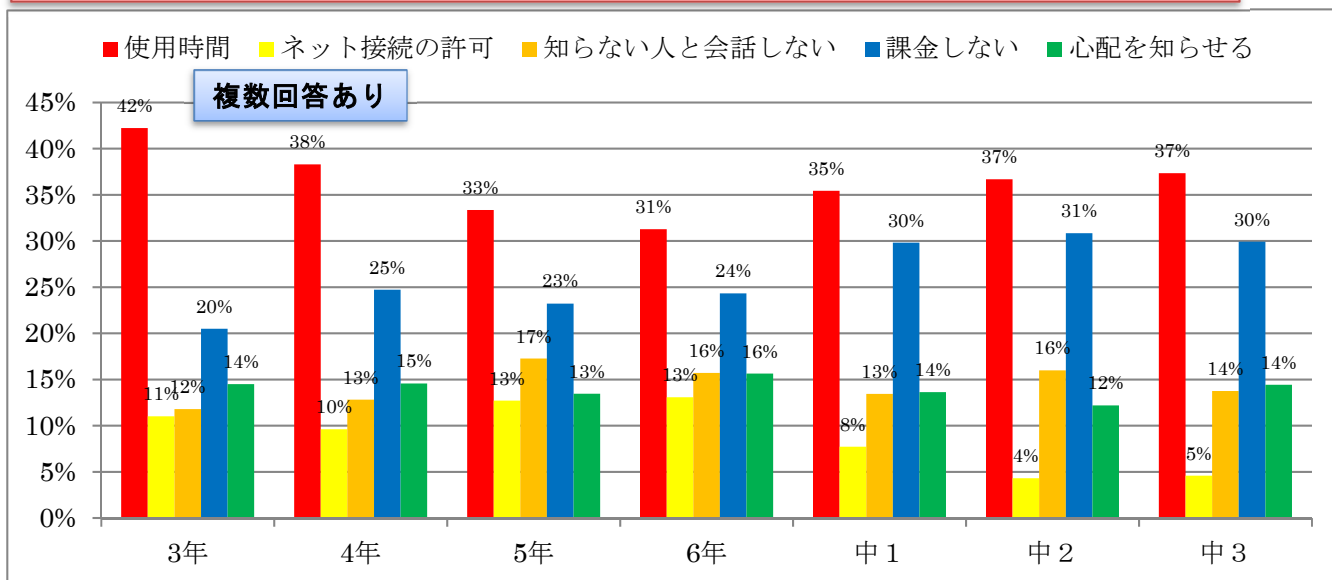
学年が上がるにつれて「勉強中や就寝時刻過ぎにLINEやメールが来る」という悩みが多くなるようで、この点については中学校区単位や市全体で約束を考えるなどの具体的な取り組みが必要ではないかと考えられる。

問⑪ 携帯電話やタブレット、ゲーム機を使うときのお家の人との約束はありますか？



小学生と中学生で違いがあり、比較的「約束を守っている」と答えているのは小学生、「約束自体がない」と捉えているのは中学生という傾向がある。保護者アンケートのズレについては後に述べるが、「約束がない」だけでなく、「約束がないがごとくになっている」という家庭が学年を追うごとに増えているのではないかと考えられる。

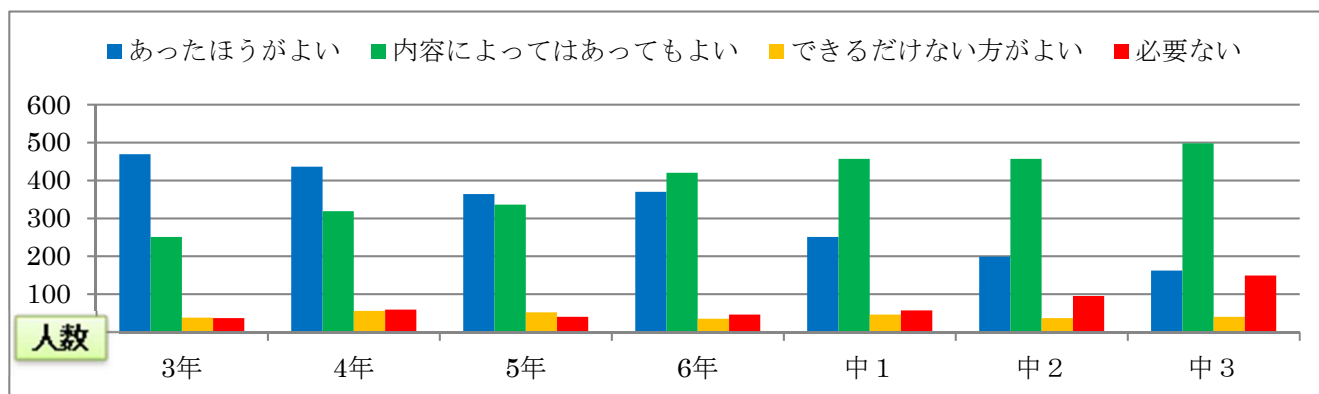
問⑫ 約束があると答えた人は、どんな約束がありますか？



どの学年も使用時間についての約束が最も多く、次いで課金しないという約束である。使用時間の問題については、この問い⑫と問⑨の回答からもわかるように、約束にもなっていて、自分でも心配になっていながらなかなかやめられない子どもたちの心の現状がうかがえる。

課金については、児童生徒からの聞き取りからわかるように、実際に課金しているケースは少ないが、あちこちとインターネットをしたり、いろいろなゲームをダウンロードしたりする中で、「知らないうちに課金されているのではないか」という不安に陥っているようである。

問⑬ 佐久市の小中学校のみんなで  
守りたい約束のようなものがあつた方がよいと思いますか？

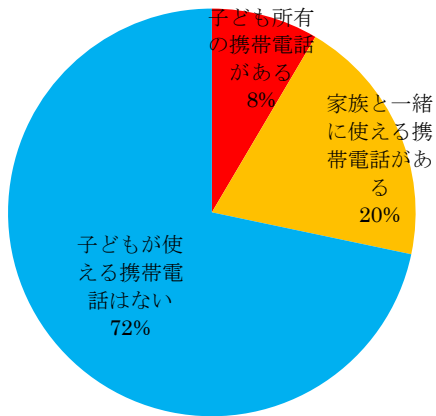


学年が上がるにつれて、「約束のようなものがあつた方がよい」と答える児童生徒は少なくなるが、「内容によってはあつてもよい」と答える児童生徒が増えている。中学2，3年生の「必要ない」という回答が多くなるのは、自覚による判断ができるということの表れと受け取りたい。

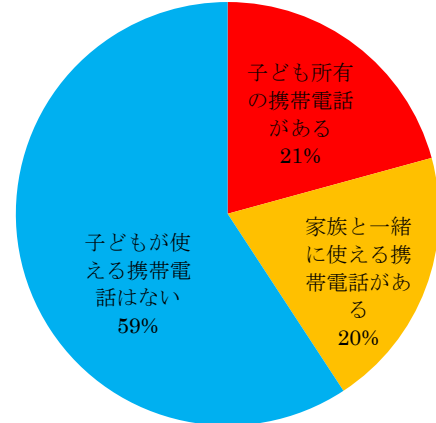
## (2) 小中学校保護者アンケートの結果から

### ① お子様が見える携帯電話(スマホ等)はありますか？

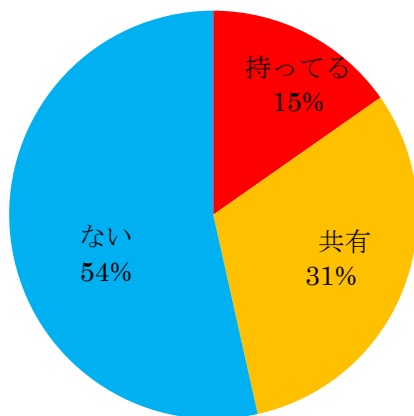
小学生の保護者の回答



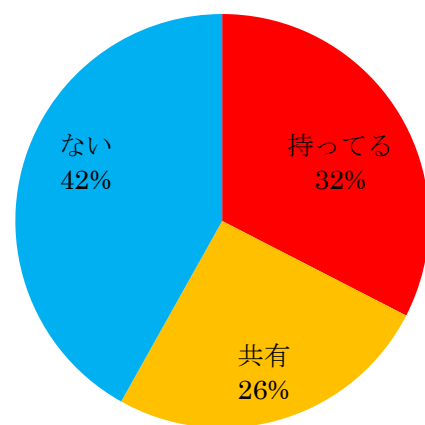
中学生の保護者の回答



小学生の回答 学校実施アンケートより



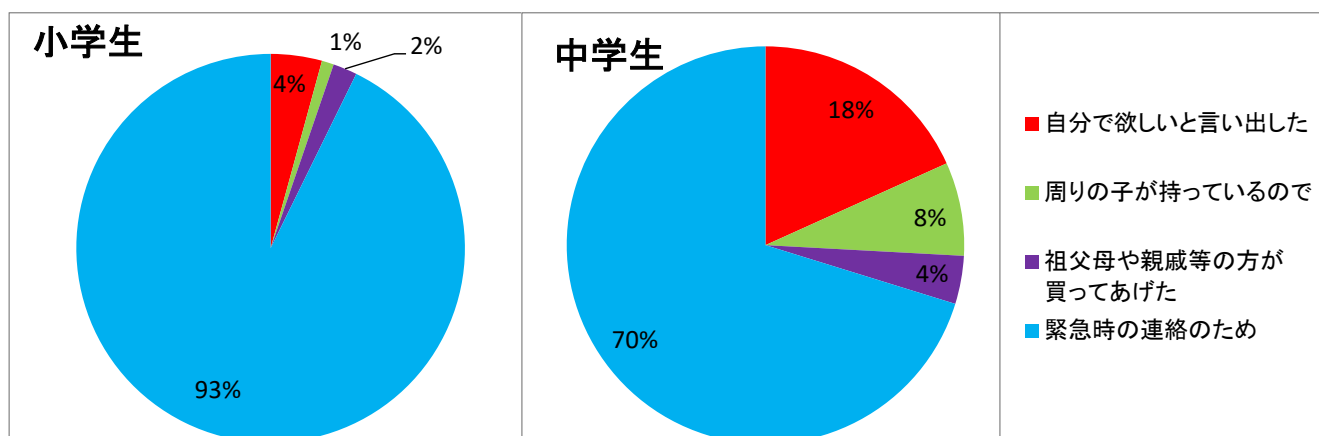
中学生の回答 学校実施アンケートより



保護者の回答と、学校において児童が回答した結果に差が見られる。考えられる状況として、①保護者は保護者の所有物と思っても、子どもたちは「自分のもの」と捉えている ②保護者所有で普段使いの携帯電話を、大人が認識している以上に子どもが使っている ということがある。「保護者が知らないところで子どもが使っている」といった状況にならないように気をつけて見ていく必要がある。

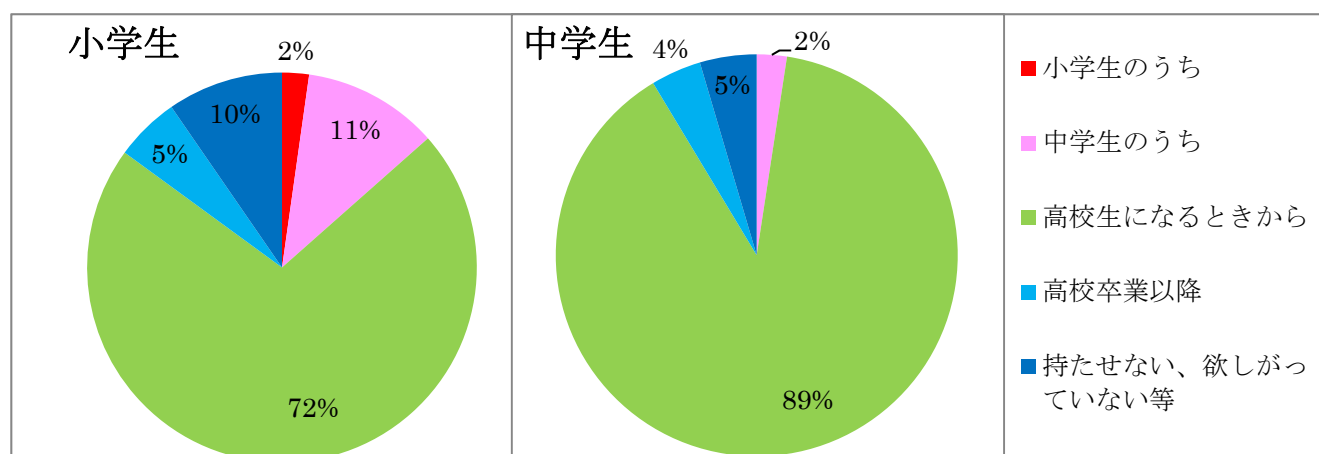
この2種類の回答から、子どもの携帯電話所持率を両者の平均としたならば、首都圏や大都市と比較して低い傾向であることがわかる。佐久市においては、後の問いの結果からもわかるように、携帯電話を持っていないからこそ、タブレットやゲーム機等への依存率が高くなる傾向があり、その現状把握と安全・安心・適切な使用ができるような啓発活動が必要であると考えられる。

## ② お子様にした目的は？（一番のきっかけ）



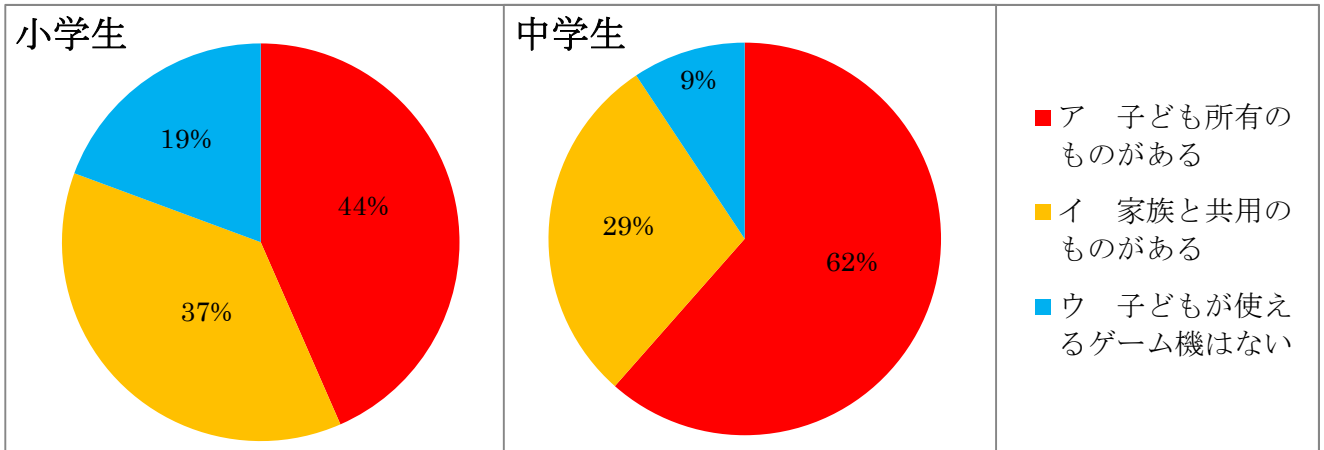
小中学生ともに、持たせたきっかけはほとんどが「緊急時の連絡のため」であるが、後の問いの結果からもわかるように、日常使用の多くはネット使用となっていることがわかる。緊急使用は日常的に行われたいのは当然であるが、子どもから見た使用目的が保護者の意図と違って「ゲーム機代わり」や「SNS、ネット使用」にすり替わっているのならば、注意して見ていかなければならない。

## ③（現在未所持の家庭）お子様だけが使える携帯電話をいつ持たせる予定ですか？



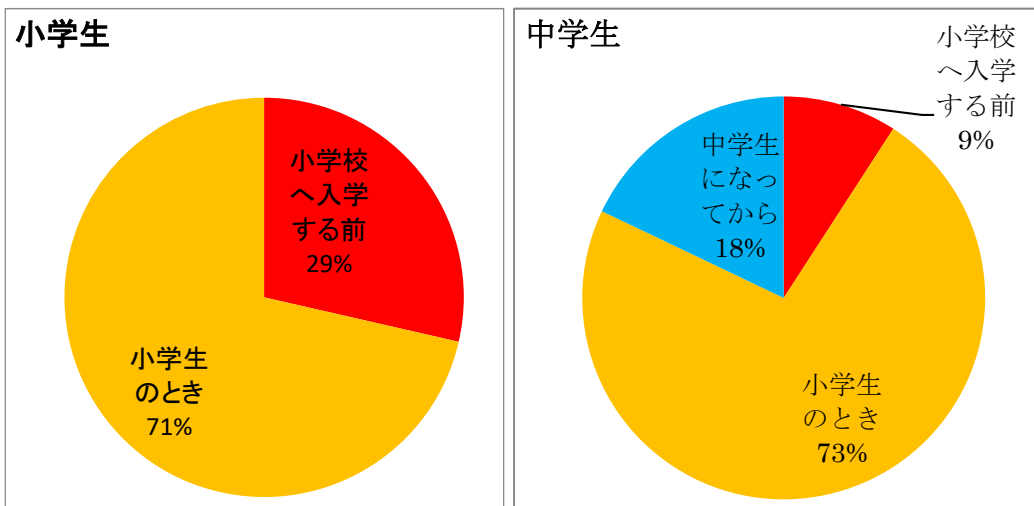
問①の結果からもわかるように、小中学生のうちから携帯電話を持たせる家庭は、首都圏や大都市と比較して低い傾向であり、「携帯電話は高校生から」という考えの家庭が少なくないことを示している。

④ お子様が日常的に使えるゲーム機やタブレット等がありますか？



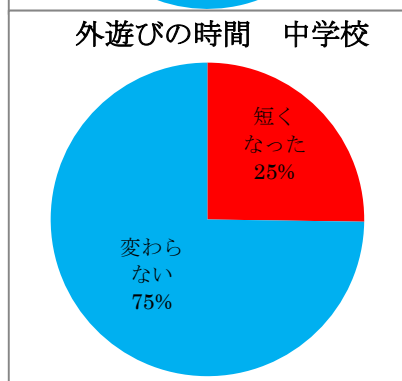
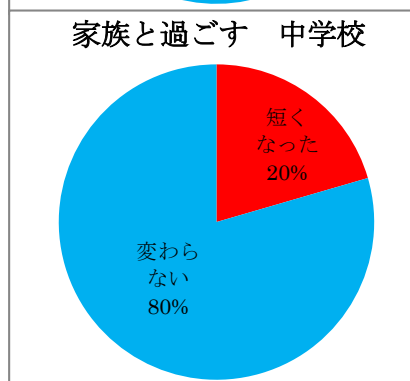
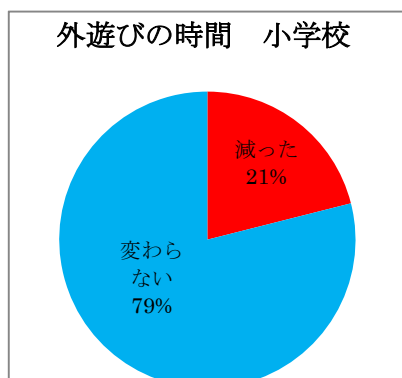
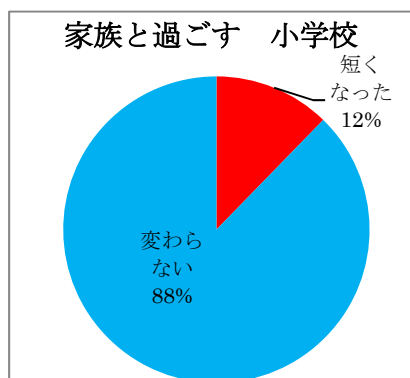
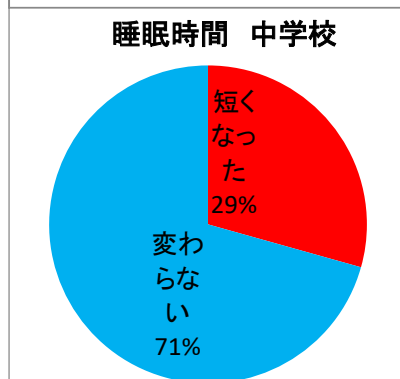
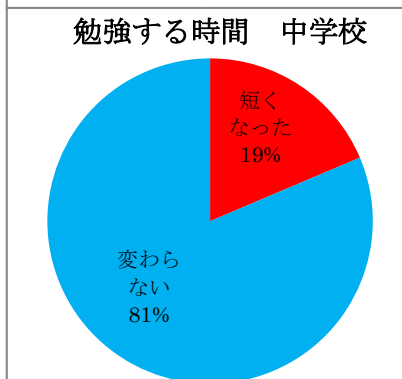
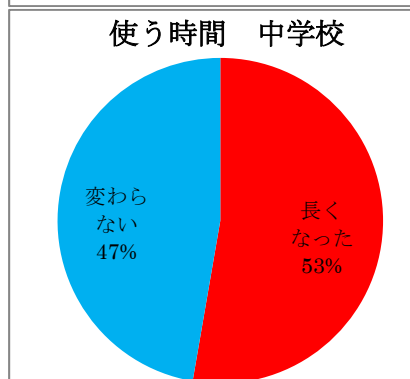
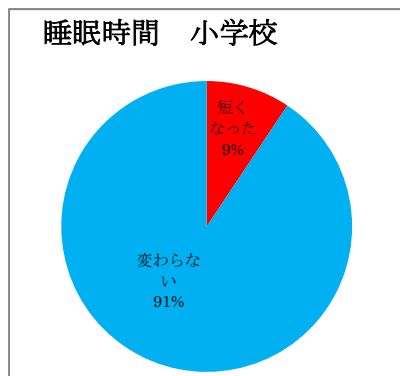
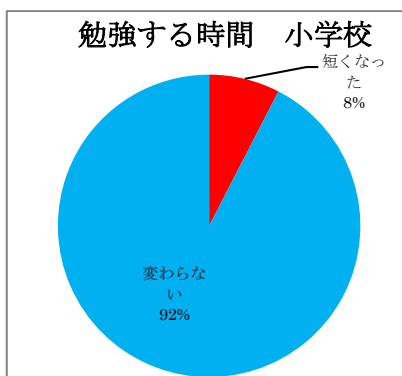
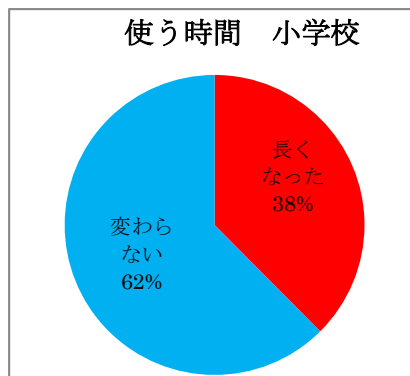
問④の結果からもわかるように、携帯電話の所持率は比較的低いので、機能的にはほぼ同等のタブレットや、インターネット接続が可能なゲーム機を購入するケースが多いことがわかる。タブレットやゲーム機からインターネット接続できることを認識できている家庭は増えてきているが、パソコンからインターネット接続をすることには慎重な家庭も、ゲーム機等からのアクセスの問題点について十分に理解できていない状況もあり、佐久市の大きな特徴であるこの点を特に重要視して啓発を進める必要がある。

⑤ ④の機器をお子様に最初に与えた(使わせた)時期を教えてください



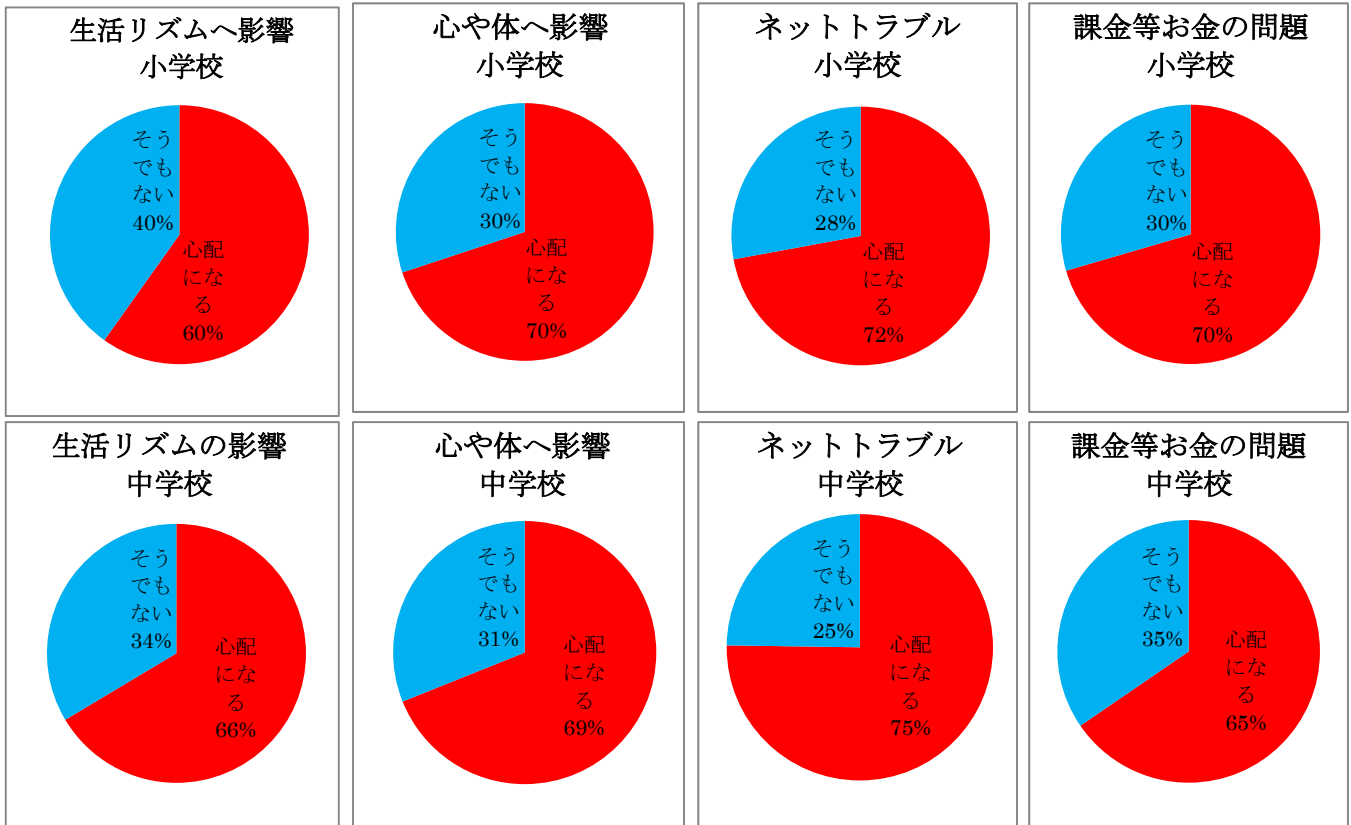
現在の中学生はタブレットやゲーム機を小中学生の時に購入しているが、現在の小学生は小学校入学前にこういった機器を購入している傾向が見られる。電子メディア機器への依存傾向が低年齢化している現状が見えてくる。一般的に、電子メディアへの過剰接触の心身への影響は、低年齢ほど大きいといわれていることから、育児世代の保護者への啓発が重要となってきたといえる。

⑥ 携帯電話やゲーム機等を使うようになってからの生活習慣について



小学校・中学校ともに「使用時間が長くなった」と感じている保護者が多い。また、学習、睡眠、家族とのふれあい、外遊び、全てにおいて中学生への影響が大きいことがわかる。特に、使用時間が長くなったことに伴って、睡眠時間が短くなったことから、夢中になって機器使用を続けるために睡眠時間を削っている様子が見えてくる。

⑦ 携帯電話やゲーム機等を使うことへの心配

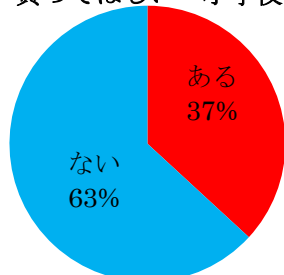


問⑥での回答とは大きく違い、どの項目も4分の3ほどの保護者が心配になると答えていて、子どもの生活習慣の変化の度合いよりも保護者が大きく心配をしている状況がわかる。各項目を見ると、小学校、中学校ともに同じ傾向が見られるものの、保護者のネットトラブルへの心配は中学校で特に大きくなる傾向がある。

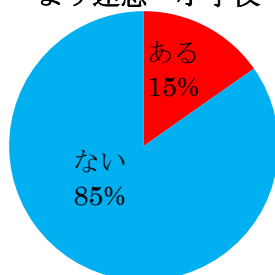


## ⑧ ケータイやゲーム機について対応に困ること

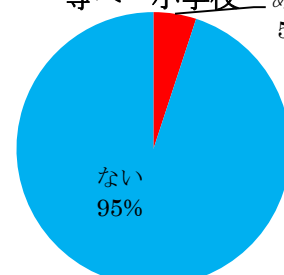
友達が持っているので  
買ってほしい 小学校



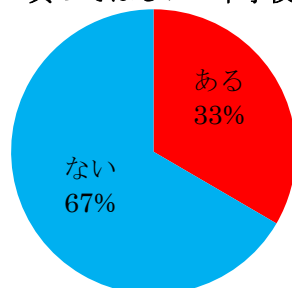
機器を持って家に集  
まり迷惑 小学校



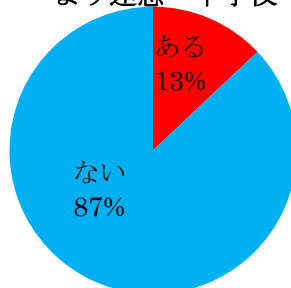
機器持ってコンビニ  
等へ 小学校 ある 5%



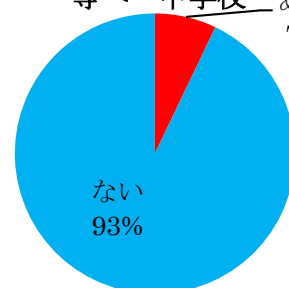
友達が持っているので  
買ってほしい 中学校



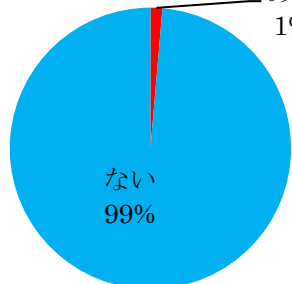
機器を持って家に集  
まり迷惑 中学校



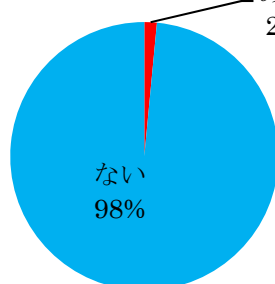
機器持ってコンビニ  
等へ 中学校 ある 7%



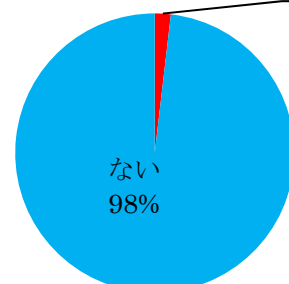
就寝時刻すぎにライン  
等が来る 小学校 ある 1%



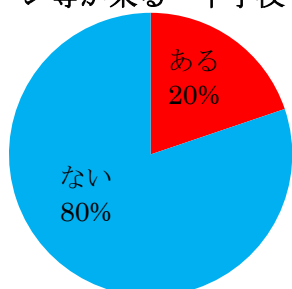
ライン等ばかり気にし  
ている 小学校 ある 2%



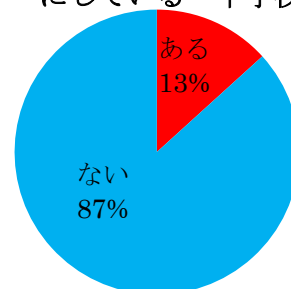
やり取りを親が見られ  
ない 小学校 ある 2%



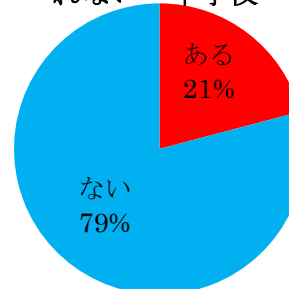
就寝時刻すぎにライ  
ン等が来る 中学校



ライン等ばかりを気  
にしている 中学校



やり取りを親が見ら  
れない 中学校

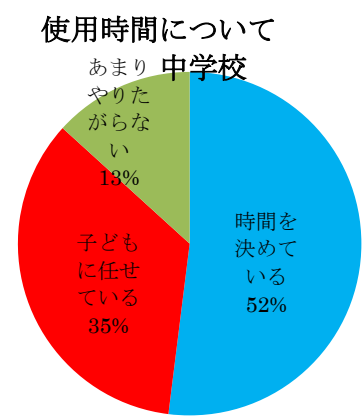
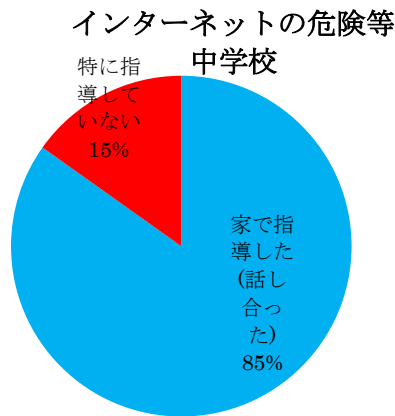
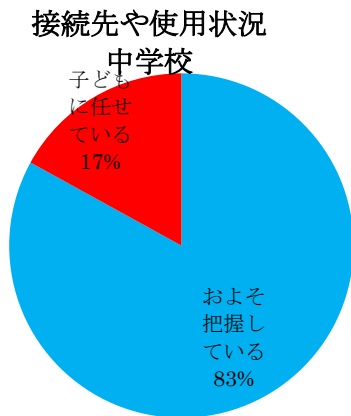
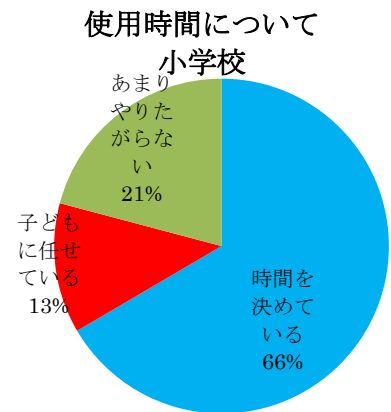
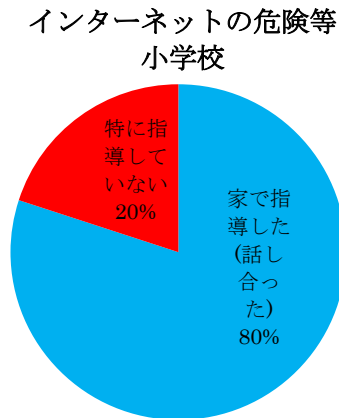
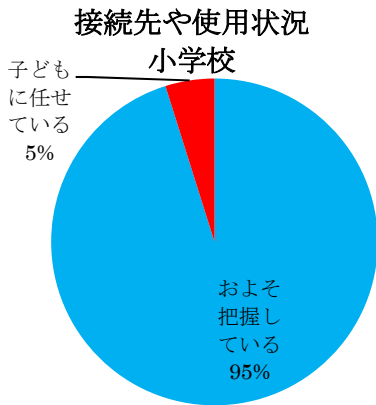


小学校、中学校ともに「友達が持っているので買って欲しい」と言われると、保護者が対応に苦慮する傾向が見える。

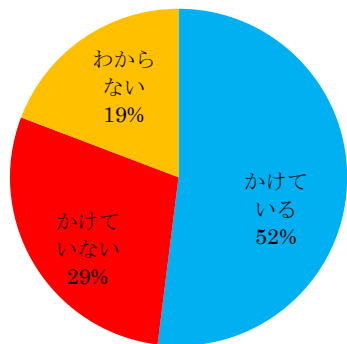
機器を持って集まる、機器を持ってコンビニ等へ、といった児童生徒の割合は多くはないが、こういった行動は、トラブルにもつながりかねないので、対象の子どもが10%前後であっても注意をしていく必要がある。

「勉強中や就寝後にライン等の連絡が来る」、や「ライン等ばかりを気にしている」について、児童生徒自身の回答(児童生徒の問9)では小学生が12~17%、中学生で18~31%あることから、その状況を保護者がしっかり把握できていない部分があると考えられる。ライン等のやりとりは、相手があることなので、学校単位や市全体で啓発していく必要がある。

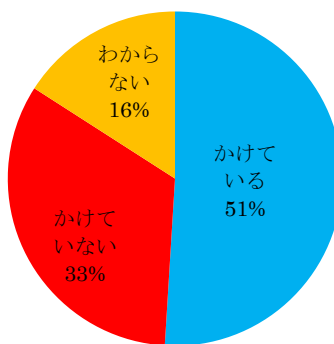
⑨ インターネットやゲーム使用について、家庭での対応 把握していること



フィルタリング 小学校



フィルタリング 中学校

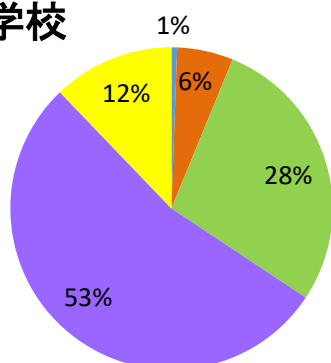


接続先や使用状況、危険等の指導、使用時間については、多くの家庭で対応している現状が見えるが、「子どもにまかせている」「特に指導していない」といった家庭については、児童生徒が自覚を持って節度ある行動を取っているために必要がないのか、あるいは本当に子どもまかせなのかについて見極めていく必要がある。

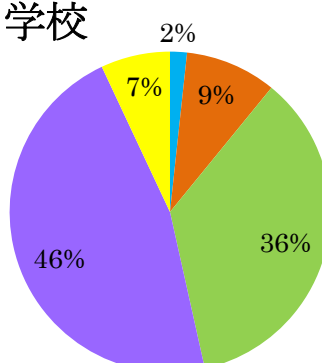
児童生徒の使用についてフィルタリングをかけることが望ましいが、かけているのかかけていないのかについて把握していない家庭が2割近くあることに課題がある。

## ⑩ 子どもとふれあう時間

### 小学校



### 中学校

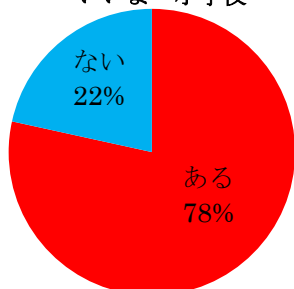


- 関わってあげられない
- 1日30分未満程度
- 1日30分～1時間程度
- 1時間を超える
- 平日関われないが土日にしっかり関わる

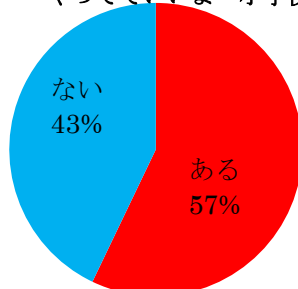
小学校、中学校ともに多くの家庭で30分を超える時間で子どもと関わりができていくことがわかる。一方でかかわってあげられない家庭もあり、子どもの心の安定という観点からも、土日や保護者の休みの日にしっかり関われる家庭の様子を参考にするなど、どうやって子どもとの時間を作っていくか様々な場で共有していく必要がある。

## 子どもへの対応でTVやゲーム機器等に頼ったことがあるか

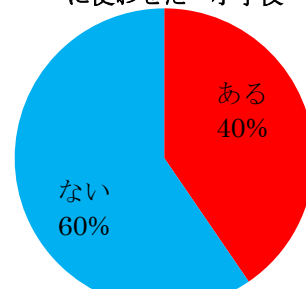
テレビ・ビデオ 見てもいいよ 小学校



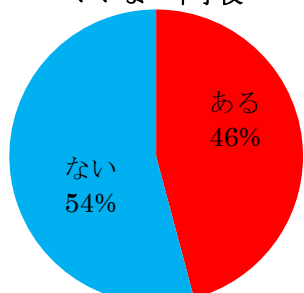
ゲームやタブレット やっていいよ 小学校



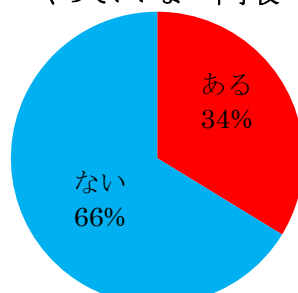
言うことをきかせるために使わせた 小学校



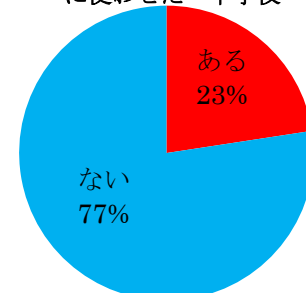
テレビ・ビデオ 見てもいいよ 中学校



ゲームやタブレット やっていいよ 中学校



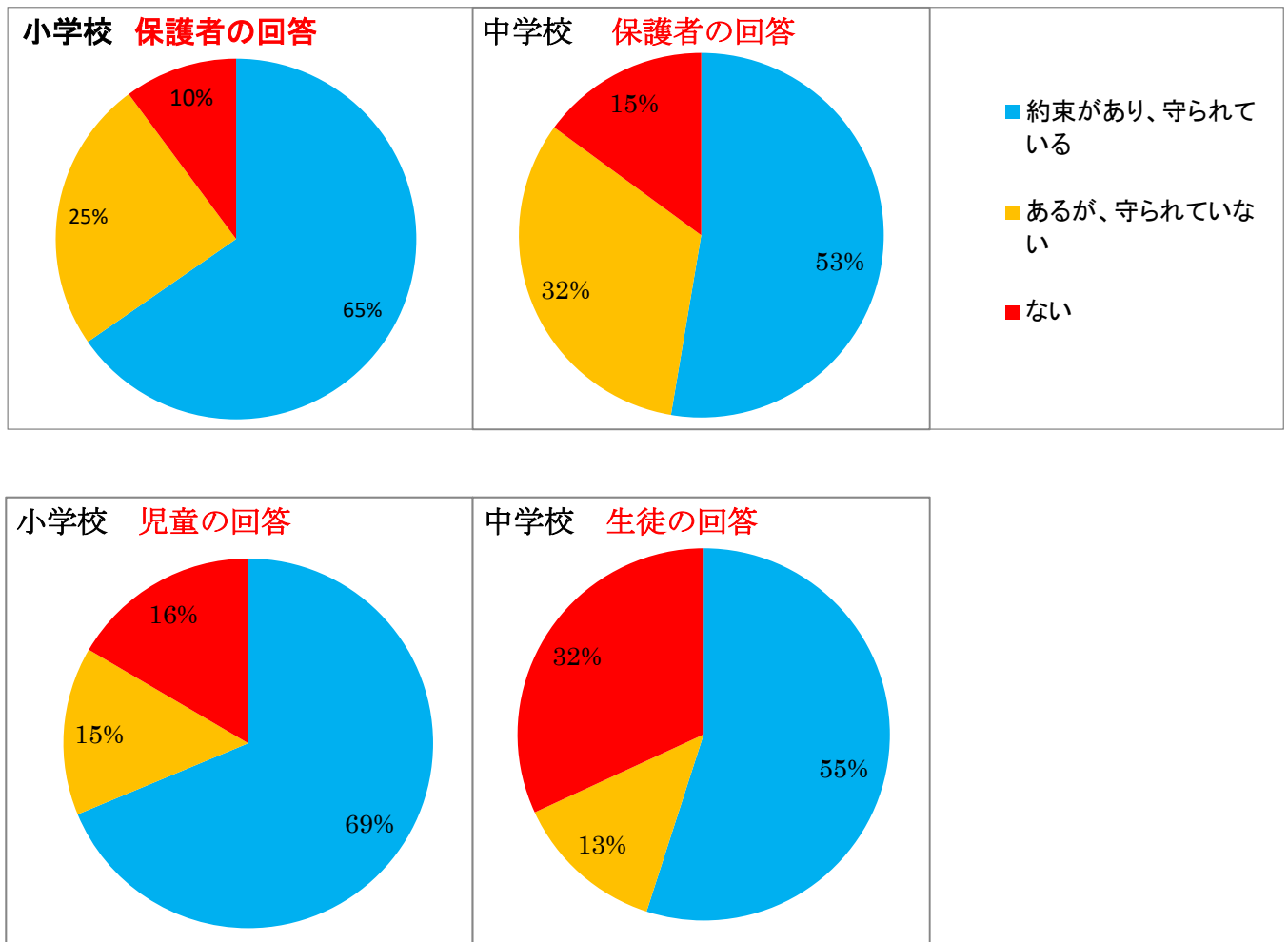
言うことをきかせるために使わせた 中学校



子どもへの対応でTVやゲーム機器等に頼る傾向は特に小学校に多い。保護者が自分の時間を確保するとき、子どもが一人で過ごす（自分なりに目的をもって時間を過ごす）ことが難しいとき、あるいは難しいと予想できるときに保護者が先回りしてTVやビデオを見せたり、ゲームやタブレットを操作させたりしてしまう状況があることがわかる。「言うことをきかせるため」というのは「〇〇(勉強とか手伝い)をしたらTV見せてあげる・・・ゲームさせてあげる」という状況を指しているが、やはり小学校の方がその傾向が強く表れている。

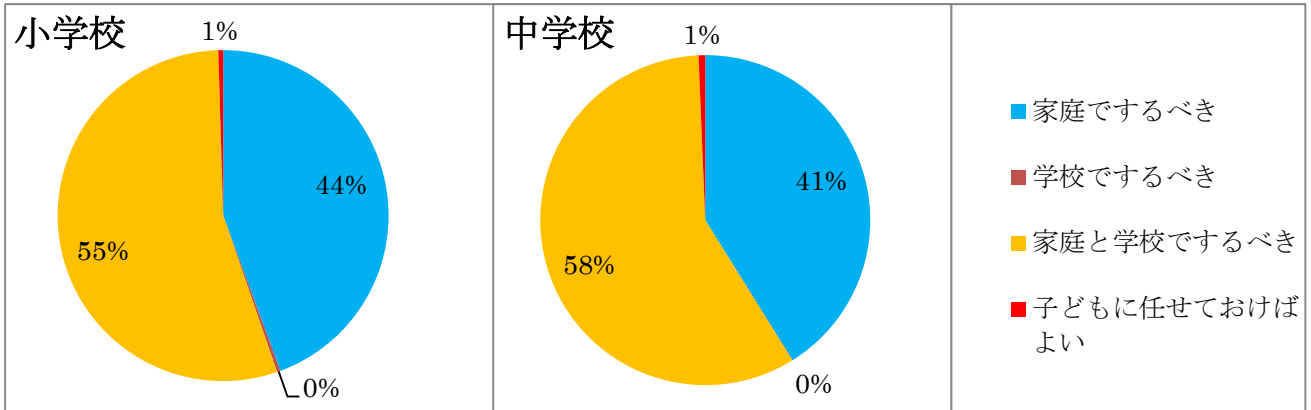
年齢が低いほど「手がかかる」のではあるが、それだけ親の愛情が必要であるということでもあり、「機器に頼る」ことで回避することは避けたいものである。

携帯電話やゲーム機等の使用について、家庭での約束は



児童生徒対象のアンケート結果と比較してみると、「約束があり、守られている」という回答は小中学校ともに、親子でほぼ同じであるが、「あるが守られていない」「ない」の回答に親子で大きな差がある。保護者は「約束はあるが守られていない」と思っているのに、子どもは「約束がない」と思っているケースが多いことがわかる。結局「約束はあるが、ないがごとくになっている」ということである。その傾向は学年が上がるほど強くなり、中学3年生は41.3%が「ない」と答えている。各家庭で、使い方の約束を今一度確認しておく必要がある。

## 携帯電話やゲーム機等の使用についての指導は



Saku Kids メディア Safety の委員の感想では「“家庭ですべき” という回答が思いの外多い」というものであったが、委員のメンバーが総合的に判断する中では、2種類の回答があることがわかってきている。

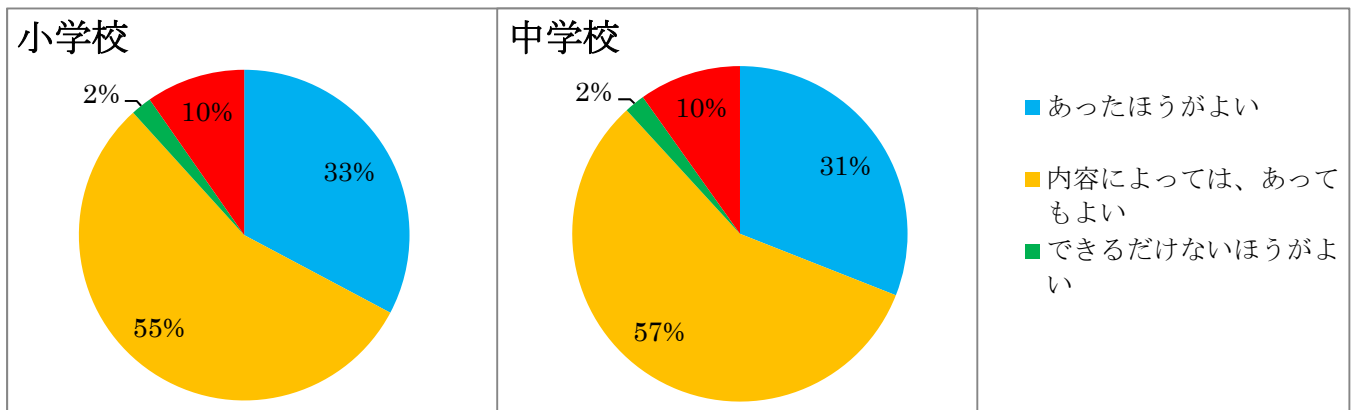
①保護者が買い与え、主に家庭で使用するものであることから当然家庭で責任を持って指導するべきものである。

②そもそも家庭の問題なのでまわりからとやかく言われたくない。

①の理由の場合はその方向性が確かであれば心強い限りであるが、②の場合、子どもが見えないところでトラブルに巻き込まれたり、放任による依存症等も心配される。

小学校、中学校どちらの保護者も「指導は家庭と学校で・・・」と考えている方が多い。学校での情報モラル教育のいっそうの推進を進めると共に、教職員・児童生徒・保護者が共に学び、共に考える機会を、学校単位や中学校区単位等で設けていく必要がある。

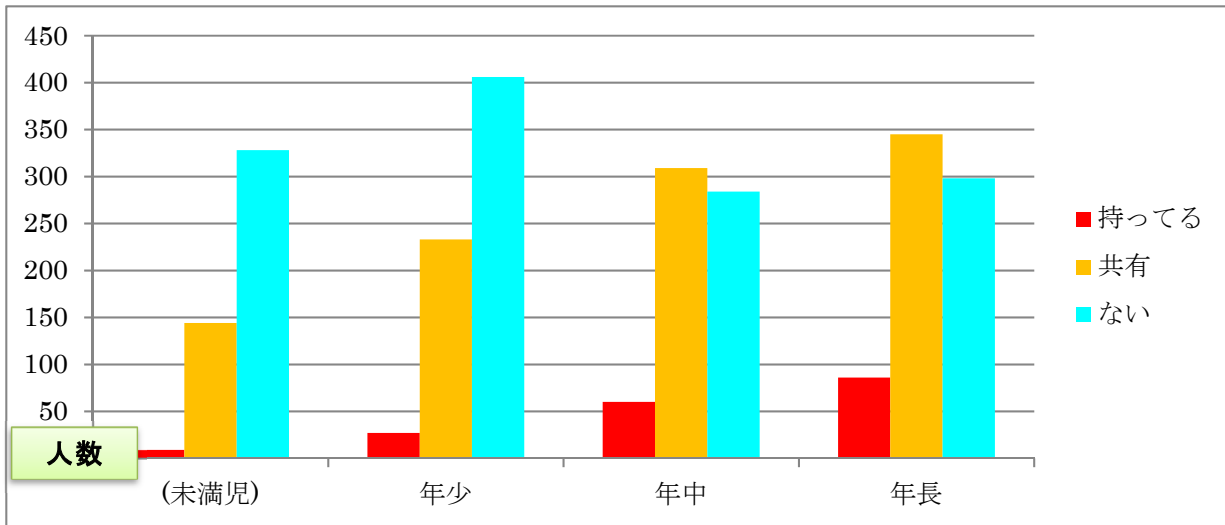
## 携帯電話やゲーム機等の使用についての市全体の約束等があった方がよいか



小学校、中学校どちらの保護者からもほとんど同様の回答を得られている。「あったほうがよい」「内容によってはあった方がよい」という肯定的な意見が大半を占めている。Saku Kids メディア Safety と教育委員会が中心となって進めている市全体としての約束づくりについて、子どもも保護者もおよそ肯定的な回答が得られており、今後子どもと共に行う話し合いの中で、多くの子どもや家庭の理解を得られながら納得できる約束づくりが進めていかれそうである。

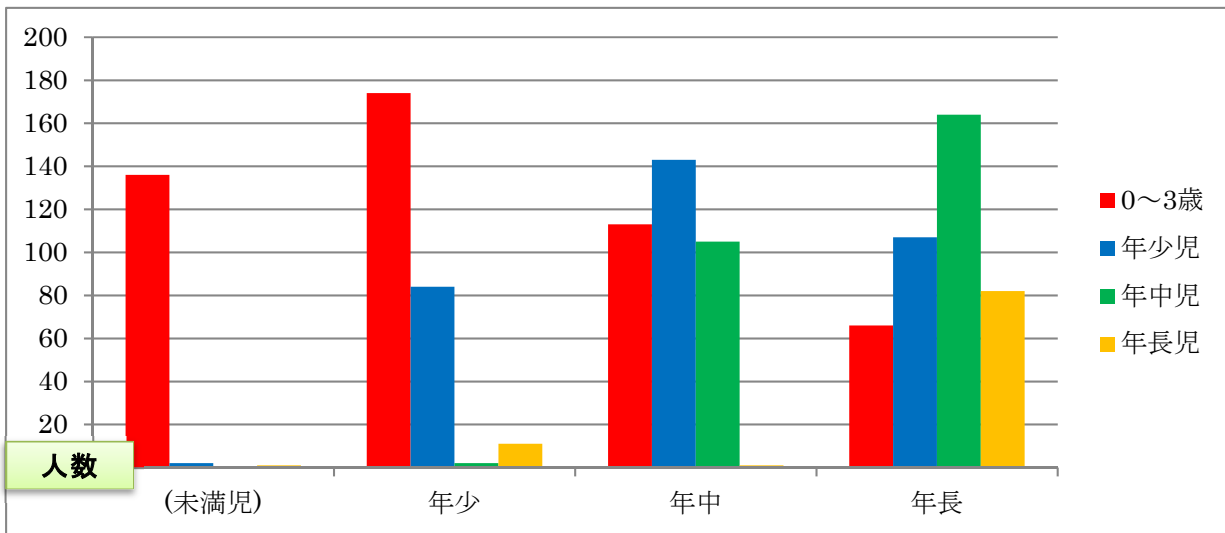
### (3) 幼稚園・保育園保護者アンケートの結果から

#### 問① 子どもが使えるゲーム機・タブレットはありますか？



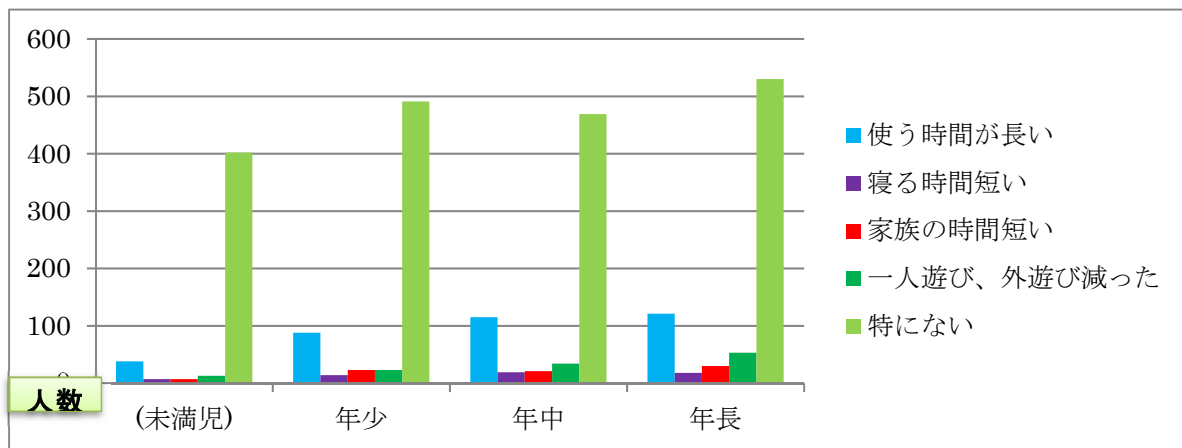
問①では、共有で使える子どもが多く、未満児で約半数、年少～年長では6割ほどの子どもが何らかの形で触れている状況が見える。

#### 問② ゲーム機・タブレットいつから使わせていますか？



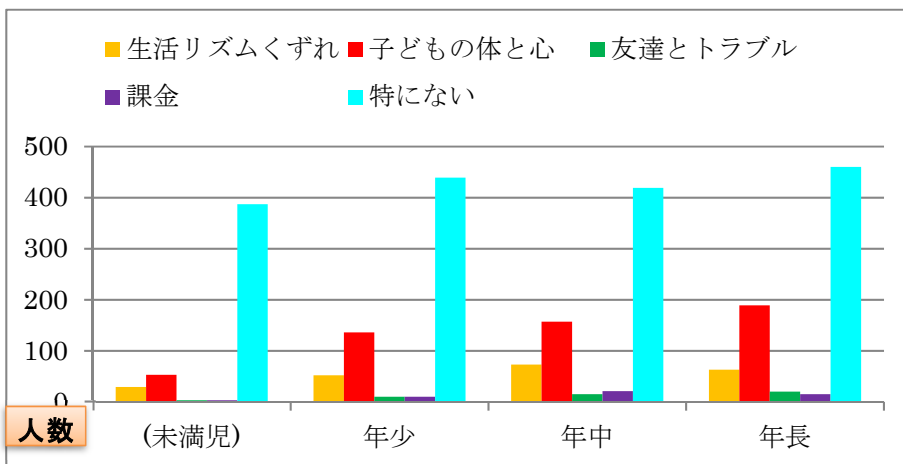
問②では、ゲーム機等の使い始めが、低年齢化している状況が見える。就学前の子どもがゲーム機等に触れることの是非は見解が分かれるところではあるが過剰な接触は避けるべきで、各園や保護者への啓発は急務であると考えられる。

### 問③ 子どもがゲーム機・タブレットを使うようになって生活は？



全体的に「生活への影響が少ない」という結果が出ているが、その中でも「使う時間が長くなった」と回答する家庭も少なくないことから注意喚起の必要がある。また、「影響がない」という捉えが「生活への影響はないが、子どもの発育に影響があるかどうかについて考えていきたい」という捉えにもつなげていきたいところである。

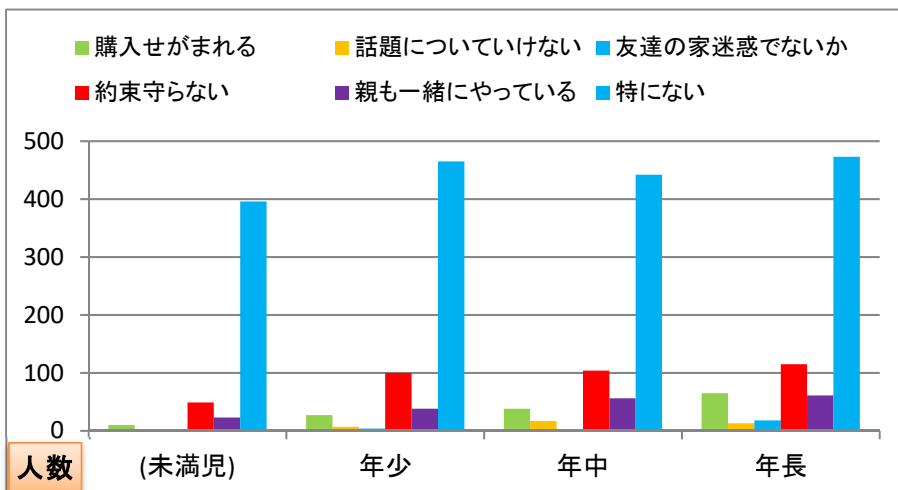
### 問④ 子どもがタブレットやゲーム機を使うようになって不安なことは？



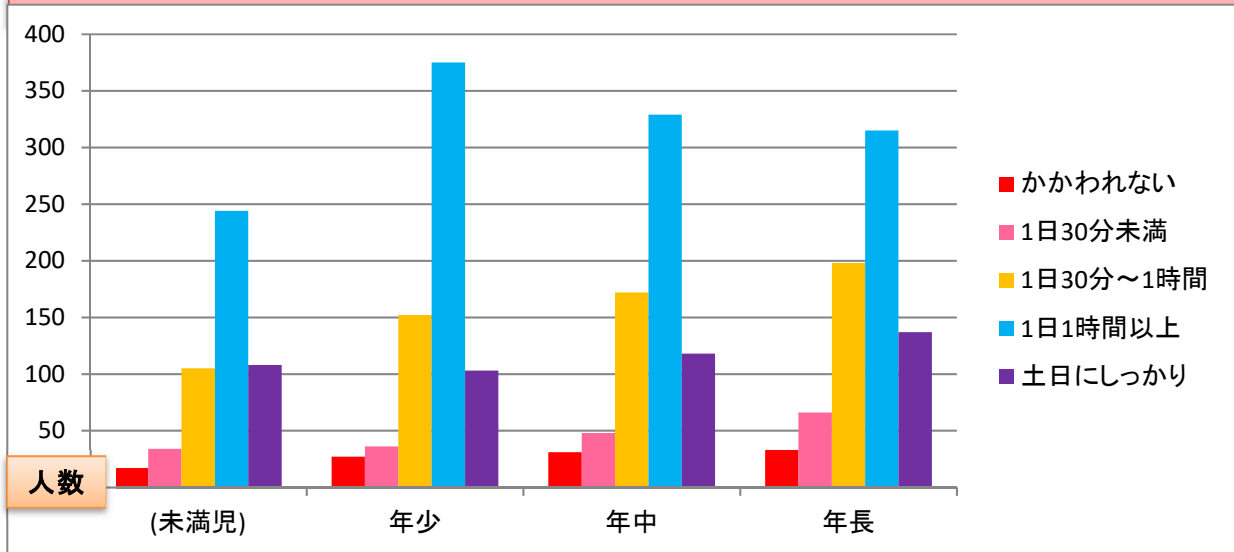
生活リズムに関しては、およそ保護者がコントロールできている状況がうかがえる。(小中学生の保護者アンケートでは生活リズムのくずれを心配する方が多い)

「子どもの心と体への影響」を心配する保護者の割合が多く、幼少である子どもへの影響を心配している状況がうかがえる。実際に目や脳等への影響、また心への影響が大きいと考えられるのが幼少期であることからこのような不安を取り除くため、また、関心が薄い中で使用している家庭への啓発という点でも、「電子メディアの過剰接触の影響」について考える機会を大切にしたいところである。

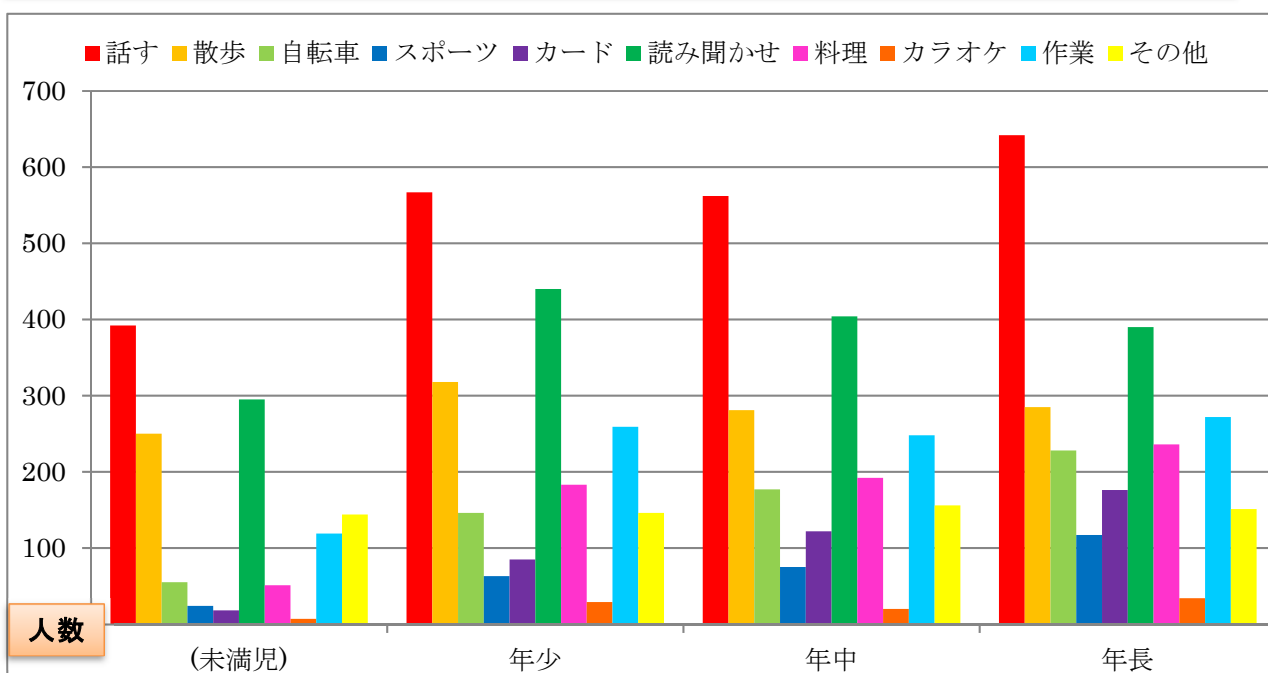
### 問⑤ その他困るようなことはありますか？



### 問⑥ 子どもとのふれあいは？



### 問⑦ 子どもとどんな関わりをしていますか？

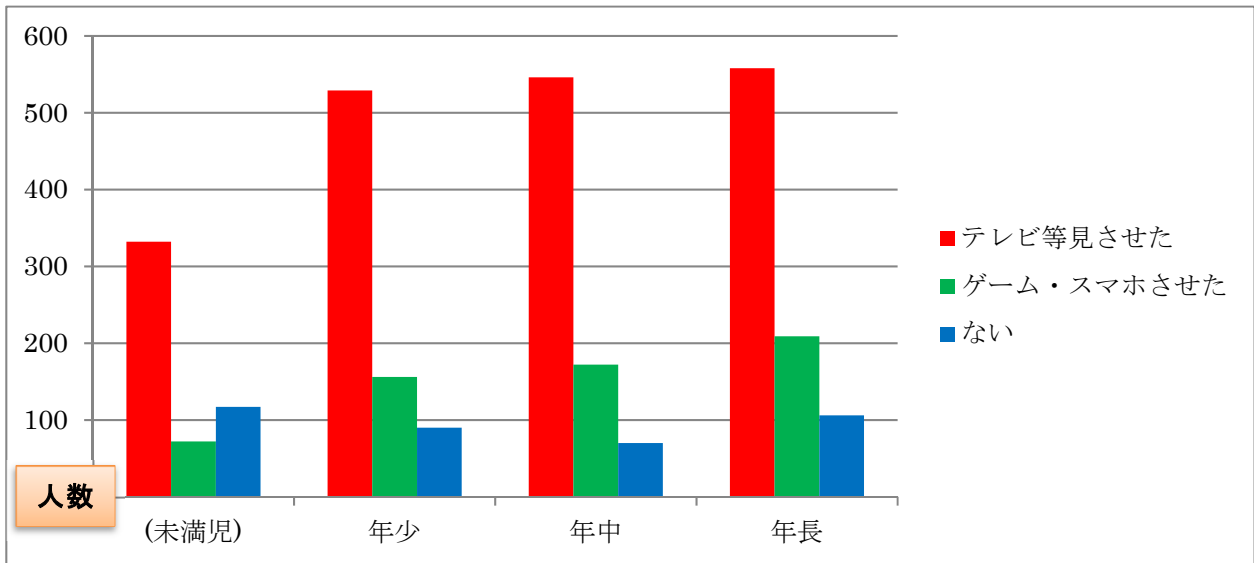


各家庭の環境が大きく違う中で、どの年齢期においても概ね保護者の子どもへの関わりは良好である傾向がうかがえる。しかし、「関われない家庭」「時間が少ない家庭」等については、親子の関わりが子どもの成長において最重要であることを繰り返し伝えて、できる範囲での改善を求めているところである。

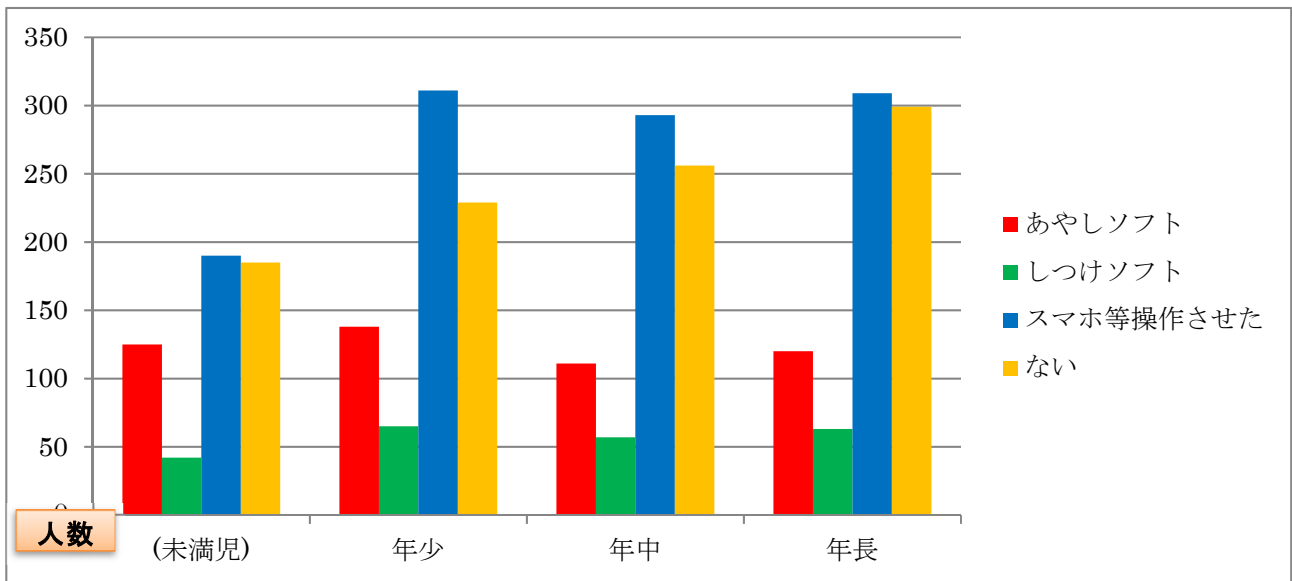
問⑦は親子のふれあいの例として参考にしたい結果である。子どもとよく話し、読み聞かせを行っている家庭が多い。共働きや保護者の帰宅が遅い家庭もある中、上手に時間を生み出して、このアンケートの結果を生かしつつ親子のふれあいをできる限り心がけてほしいと願う。



問⑧ 子どもへの対応でタブレット等にたよったことがありますか？

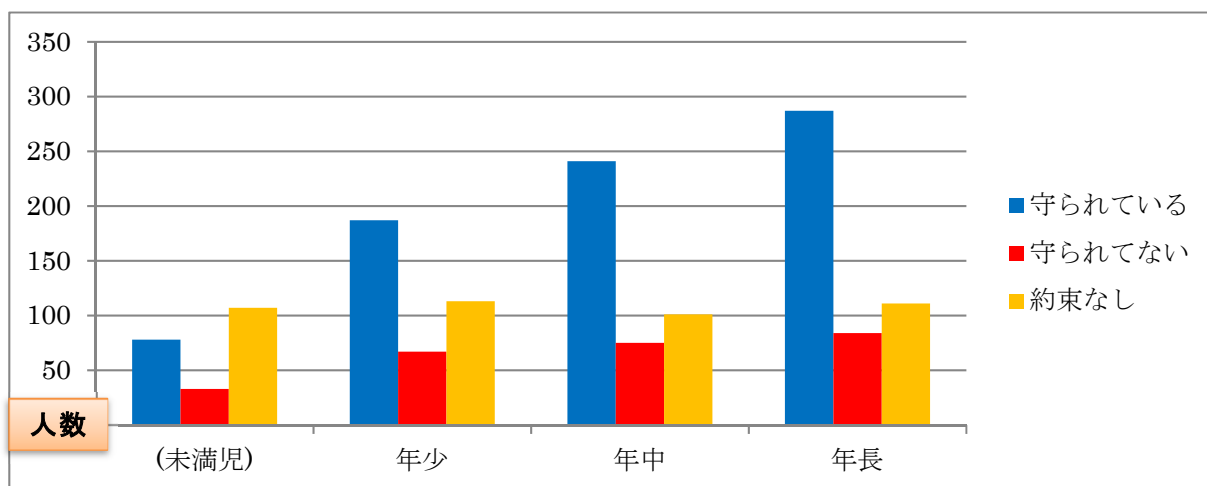


問⑨ 子どもを落ち着かせたい時にタブレット等にたよったことは？



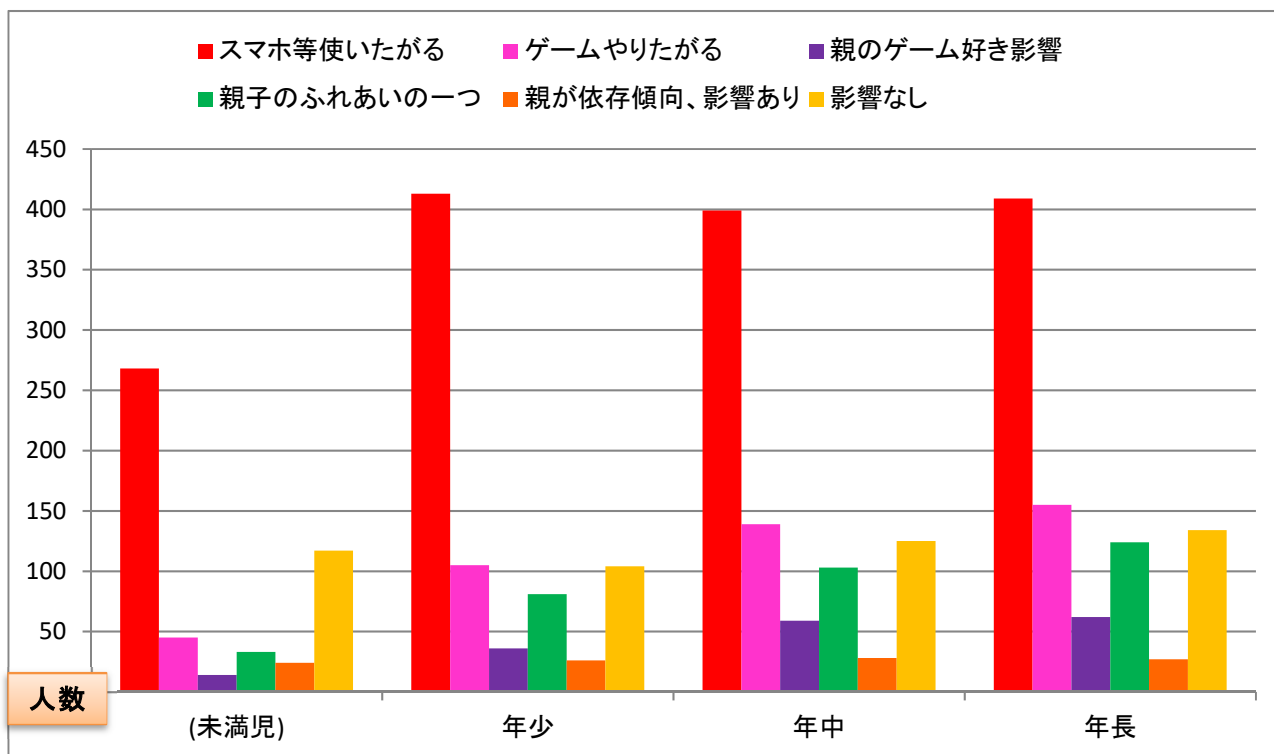
問⑧と問⑨からは、子育てを電子メディア機器に頼る傾向が少なくない状況が見えている。未満児への対応でも使われていることから、過剰接触の低年齢化が危惧される。また、子どもを落ち着かせるために「操作させる」家庭が、未満児でも4割近く、年少～年長でも半数近くあることから、過剰接触による依存傾向（親・子双方）や、子どもの心への影響も心配される。

## 問⑩ タブレット等について子どもとの約束は？



小中学生になって「約束」をしようとしても、すでに依存傾向になっていて対応に苦慮する家庭が少なくないことからわかるように、「子どもに触れさせる」ならば、早い段階から「約束」「好ましい習慣」というものを意識させる子育てを啓発していきたいところである。

## 問⑪ タブレット等について、親から子への影響はありますか？



スマホを使いたがる子どもは、未満児から多く見られることから、幼少期のこどもへの影響は、保護者の姿勢にかかっているとみえる。保護者の多くが、「ゲーム世代」「スマホ世代」で育ってきたと言われる現在において、子育てのあり方を共に考えていくことは非常に重要な局面を迎えていると考えたい。